慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	校本『勅撰名所和歌要抄抽書』(下)
Sub Title	Un Texte Confronté de Tyokusen-Meisyowaka-Yosyo-Nukigaki (II)
Author	中島, 正二(Nakashima, Shoji)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1993
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.62, (1993. 2) ,p.1- 68
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00620001-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

校本『勅撰名所和歌要抄抽書』（下）

中島正二

前号に引き続き、本稿では「河原」の項目以下の後半部分を掲載する。凡例及び諸本の概略等については、前号を参照されたい。なお、凡例に以下のことを付け加える。

底本の斯道文庫本では各項目の例歌一首目の詞書は、地名の下に書かれていることが多いが、叡山文庫本、龍谷大学図書館本ではたいてい改行して書かれている。それに関しては校異としては記さなかったので、該当する歌の番号を挙げておく。

二九　一五一　一五四　一五五　一五七　一六一　一九一　一九三　二〇五　二一四　二三九
二六六　二八八　二四九　二五一　二五九　二六二　四七四　五四八　五五八　五九五
六九八　八〇九　八二一　八四三　八九九　九三一　九三三　九三七　九四〇

最後に「勅撰名所和歌要抄抽書所載歌枕一覧」を付けた。また、本稿との関連上、拙稿「『勅撰名所和歌要抄』並びに『勅撰名所和歌要抄抽書』の諸本について」（『三田國文』一九九二年六月）を御参照いただければ幸いである。

1　河原—河原廿四(叡)次行の「山城国」の上(竜)

四八七　後拾—後撰(叡竜)河原の—河原に(竜)駒とめて—駒て(叡)

四八八　続古—ナシ(叡)はしめなるらむ—始ならん(叡)

2　大和国—前行にあり(叡竜)

3　津—津廿五(叡)次行の「摂津国」の上(竜)

四九〇　見るかかなしさ—見るかゝなしき(竜)

4　同郡—ナシ(竜)

四九一同　—万(竜)かへりませ—かへれませ(叡)憶良—ナシ(竜)

四九二　・—同(同)たかつは—たか津の(叡)

5　吉住郡—吉住郡(叡竜)

四九三　浦に—浪に(竜)

四九四　続後撰—ナシ(叡)続後(竜)　いさり舟—舟(叡)こかれてそふる—こかれてそみる(竜)

河原[1]

山城国

賀茂河原　愛宕郡

四八七　後拾　ちかはれしかもの河原の駒をとめてしはし水かへ影をたにみん　敦忠

四八八　続古　霧ふかき賀茂の川原にまよひしやけふのまつりのはしなるらむ　関白左大臣

龍田河原　大和国[2]　牟群郡

四八九　後撰　夏衣たつたかはらの柳陰すゝみにきつゝならすころ哉　好忠

津[3]

摂津国

灘波津　西生郡

四九〇　万　なにはつに人のゆけれはをくれゐてわかなつむこを見るかかなしさ」三七ウ

三津　〔焼しほの〕　同郡[4]

四九一　同　おほともの三津の松はらかき分てわれたちまたんとかへりませ　憶良

高津　同郡

四九二　・　久かたのあまのさくめか岩舟をとめしたかつはあせにけるかも　角丸

敷津　吉住郡[5]

四九三　新古　船ながら今夜はかりは旅ねせむしさ津の浦に夢はさむとも　実方

近江国

滋賀津　〔求食〕

四九四　続後撰　見るめなきしかつの蜑のいさり舟君をはよそにこかれてそふる　洞院摂政

6　泊―泊廿六（叡）次行の「摂津国」の上（竜）

7　西生郡―ナシ（叡竜）

8　明石郡―ナシ（叡）

四九六　新古―ナシ（叡）

四九七　同―古（叡竜）

9　淀分―淀廿七（叡）淀〈次行の「山城国」の上〉（叡）

四九八　恋も―恋を（竜）読人不知―読不（叡竜）

四九九　新古―ナシ（叡竜）

五〇〇　続後撰―続後（叡）続古（竜）

泊[6]

摂津国

三津泊　西生[7]郡

四九五　万　おほとものみつのとまりに船は出て立田の山をいつかこえゆかん

播磨国

明石泊　明石[8]郡　」

四九六　新古　二声ときかすは出し郭公いく夜明石のとまりなりとも　公通

備前国

唐琴泊

四九七　同　浪の音の今朝からことにきこゆるは春のしらへやあらたまるらん　清行

淀分[9]

山城国

淀〔澤水〕　乙訓部

四九八　かりてほすよとのまこもの雨ふれはつかねもあへぬ恋もする哉　読人不知

四九九　新古　のほりえぬよとの筏のつなて縄此世斗をひく人もかな　前内大臣

河内国

高瀬淀　茨田郡　〔さて　かゝり〕

五〇〇　続後撰　いくとせかたかせのよとのこも枕かりそめながら結ひきぬらむ　勝命法師

伊勢国　」三八ウ

五〇二　わたり―わたる（叡竜）

1　湊―湊廿八（叡）次行の「摂津国」の上（竜）

五〇三　隆信―隆房（叡）

五〇三　同―ナシ（叡）千（竜）　成保―重保（叡竜）

五〇四　いせの海の―いせの海（竜）

五〇五　伊勢の海の―伊勢の海や（竜）　うけえ―うけく（竜）

五〇六　続後拾―続後（叡竜）　顕照―顕眼（叡）顕昭（竜）

五〇八　あまきりあひ―あさきりのあひ（叡）あさきりあ

大淀

五〇二　新古　おほよとの御祓いく世になりぬらん神さひわたり浦の姫松　兼澄

湊[1]

摂津国

猪名湊　〔千鳥〕

五〇三　千　うきねするゐなのみなとに聞ゆなり鹿の音おろす峯の松風　隆信

難波湊

五〇三　同　霜かれのなにはの蘆のほの〳〵とあくる湊に千鳥鳴なり　成保

伊勢国

小野湊

五〇四　続古　いせの海のをのゝみなとのをのつからあひみる程の浪の間も哉　衣笠内大臣

苧生湊

五〇五　玉　伊勢の海のおふの湊にひくあみのうけえに人をうらみてそふる　泰綱

遠江国

白菅湊

五〇六　続古　松かけののいり海懸てしらすけのみなと吹こす秋のしほかせ　基

近江国

比良湊　滋賀郡

五〇七　続後拾　船出するひらのみなとの朝氷さほにくたくる音のさやけさ　法橋顕照

水茎岡湊

五〇八　万　あまきりあひひかた吹くらし水くきの岡の湊に浪立わたる

ひ（竜）

五九 万玉—玉（竜）いそ崎を—いそさきの（叡）　あふみなる—あふみなる（竜）

2　海人小舟—ナシ（叡）　3　本歌—本（竜）依—ナシ（竜）

※　双行の「此歌は～入之」の部分は五一〇の後（叡竜）。

五一〇　読人不和—読不（叡）

五一一　続古—ナシ（叡）

4　・—海部郡（叡）

5　海—海廿九（叡）次行の「摂津国」の上（竜）

6　越中国—越中（竜）

五一四　同—新古（叡）なかむれは—詠れは（竜）・—後徳大寺（叡竜）

五一七　万—ナシ（叡）今さかりなる—いま盛り也（叡）今さかりなり（竜）宮に—宮（叡）

※　五一六の歌なし（叡）。

五一七　ともに—とも□（竜）

五〇九　万玉

八十湊

いそ崎をこきてめくれはあふみなるやその湊にたつさはになく　高市黒人

出羽国

袖湊　〔海[2]人小舟〕　[3]此歌は袖にみなとのとよめり非名所歟然而後人多以此歌為本歌詠袖湊依為根源入之

五一〇　新古　おもほえす袖に湊のさはくかなもろこし船もよりし斗に　読人不知

五一一　続古　鳴ちとり袖のみなとをとひこかしもろこし船のよるのね覚に　定家

紀伊国

由良湊　・[4]　」三元ウ

五一三　新古　きの国のゆらの湊にひろふてふたまさかにたにあひみてしかな　長方

五一三　同　かちをたえゆらのみなとによる舟のたよりも知らぬ興津塩かせ　摂政

海[5]

摂津国

那古海　住吉郡　越[6]中国射水郡在同名

五一四　同　なこのうみの霞の間よりなかむれは入日をあらふ興津白浪　・

難波海　西生郡

五一七　万　桜花今さかりなる難波の海のをしてる宮にきこしめすなへ　家持

武庫海　武庫郡

五一六　同　むこの海のにはよくあらしいさりする海士のつり舟浪の上にみゆ

生田海

五一七　をくれては生田のうみのかひもなししつむみくつにともになりなん　弁乳母

伊勢国　」

1 たくなわ—たつみ(竜)　2 渚をきよみすむ鶴の—ナシ(叡)

五八　・—古(竜)　読人不知—読不(叡竜)

伊勢海　〔海士のたくなわ[1]　みるめ　渚[2]をきよみすむ鶴の〕

五八　・　いせのうみにつりする海士のうけなれや心一をさためかねつる　読人不知

伊豆国

伊豆海

五九　続後撰—続後(叡竜)はこねちや—筥根路を(竜)

五九　続後撰　はこねちや我こえくれはいつの海や興の小嶋に浪のよるみゆ　鎌倉右大臣

下総国

香取海　香取郡

五一〇　・—万(竜)

五一〇　・　おほ舟のかとりの海にいかりおろしいかなる人かものおもはさらん

近江国

近江国　〔白木綿花に　みるめ〕

五一一　続後拾(万)—万続後(叡竜)人丸—ナシ(竜)

五一一　続後拾(万)　あふみのうみ夕浪ちとりなかなけは心もしのに古おもほゆ　人丸

五一三　われは—われと(竜)

五一三　あふみの海の興こく船のいかりおろしかくれし君かことまつわれは

信濃国

諏方海　諏方郡　〔四〇ウ

五一三　すはの海氷のはしはちはやふる神のわたりてとつるなりけり

陸奥国

奥海

五一四　・—新古(叡竜)かたはゆふかひも—かたのゆふかひも(叡)かたのいふかひも(竜)

五一四　・　たつねみるつらき心のおくの海に塩干のかたはゆふかひもなし　定家

五一五　岩—石(竜)

五一五　続古　うしとても身をはいつくにおくの海のうのゐる岩も浪はかくらん

越前国

五二六　海士―□(竜)人丸―人□(竜)

五二七　・―万十七(竜)

※ 五二七の後に一首あり(竜)。後記。

3 射水郡―ナシ(竜)

五二八　万―ナシ(叡竜)朝―今朝(竜)かこめ―かこそ(叡竜)

※ 五二八の後に二首あり(竜)。後記。龍谷大本はここで上巻終わり。

4 浦―浦州(叡)次行の「摂津国」の上(竜)

※ 「浦」の前行に「勅撰名所和歌要抄抽書下」(竜)

五二九　拾―ナシ(叡)

五三一　なくさみそなき―なくさめもかな(叡)

五三二　きなん―□なむ(竜)かりてん―かりてな(竜)

五三三　続後撰―続後(叡)

5 同所―ナシ

気比海　敦賀郡

五二六　万　けひの海のにはよくあらしかりこもの乱て見ゆる海士の釣船　人丸

能登国

珠洲海　珠洲郡

五二七　・　すゝのうみに朝ひらきしてこきくれはなか濱のうらに月てりにけり

越中国

奈呉海　射水郡[3]　〔朝けの名残〕

五二八　万　なこのうみを朝こきくれは海中にかこめなくなるあはれそのかこ」

浦[4]

摂津国

住吉浦　〔藤〕

五二九　拾　あまくたるあら人神のあひおひを思へは久し住吉の松　安法々師

津守浦　同所　〔遠里をのはころもうつなり〕

五三〇　万　住吉のつもりの海士のうけのをのうかひかゆかん恋つゝあらは

五三一　新勅　たのめつゝこぬ夜つもりの浦みてもまつより外のなくさみそなき　忠度

浅香浦　同所

五三二　万　夕されは塩みちきなん住よしのあさかの浦に玉もかりてん　弓削王子

五三三　続後撰　住吉のあさかの浦のみほつくしさてのみ下に朽やはてなん　権僧正雲雅

長居浦　同所[5]

五三四　・—千(竜)
1　□〈黒滅〉—め(叡竜)
五三五　きりの—紀路の(竜)
五三六　古今—古(叡竜)読人不知—読不(叡竜)
五三七　かくけれ—かけけれ(叡竜)
五三八　ち船とゝまる—ち舟のとまる(叡)千舟とまる(竜)
2　郡不審—ナシ(叡竜)
3　濱千鳥—ナシ(叡)
五三九　同—万(竜)濱—春(叡)
五四〇　同—万(叡)まのゝ浦—まのゝ浦の(竜)心には—心にも(竜)
五四一　まのゝ浦の—まのゝ浦(叡)真照法師—ナシ(叡)
4　高師—高石(叡竜)

五三四　・　霜さえてさ夜も長居の浦さむみ明やらすとや千鳥鳴らむ　法印静賢
　　葦屋浦　菟原郡　〔蘆屋かたともよ[1]□り〕
五三五　続古　明わたるあし屋の浦の浪間よりほのかにみゆるきりの遠山　為家〔四一ウ〕
　　須磨浦　八部郡　〔やくしほかまの〕
五三六　古今　すまの海士の塩やく煙かせをいたみおもはぬ方にたなひきにけり　読人不知
五三七　千　旅ねする須磨の浦路のさ夜ちとり声こそ袖の浪はかくけれ　家隆
　　大輪田浦　同郡
五三八　万　はまきよく浦なつかしみ神代よりち船とゝまるおほわたのうら
　　三犬女浦　郡[2]不審　〔濱[3]千鳥〕
五三九　同　ますかゝみみぬめの浦はもゝ船のすきて行へき濱ならなくに
　　真野浦
五四〇　同　まのゝ浦よとのつき橋心にはおもふやいもか夢にしみゆる
五四一　続古　夜半にふくしほかせさむみまのゝ浦の入江のちとりいまそ鳴なる　真照法師
　　和泉国
　　高師浦[4]　大島郡
五四二　金　音にきくたかしのうらのあた浪はかけしや袖のぬれもこそすれ　一宮紀伊
　　吹飯浦　日根郡　〔天つ風　たつ〕　」
五四三　千　さよちとりふけゐの浦に音信てゐ嶋かいそに月かたふきぬ　宗泰
　　伊勢国

五四五　古今―古(叡竜)おほの―おふの(叡)かたらはん―かたらん(叡)

5　行幸の時都に―行幸之時ニ(叡)

五四六　万玉―万玉十五(竜)塩みつらんか―塩かみつらん(叡)

6　愛智郡―次行に「鳴海浦　愛智郡」(竜)

※　五四七の前行に「鳴海浦」(叡)。

五四八　・―同(叡竜)しほたれてのみ―しほれてのみも(竜)

五五〇　・―新勅(竜)

7　玉もかり―玉もかる(叡)玉藻刈(竜)　8　もしほの火―もしほのけふり(叡竜)

二見浦

五五四　金　玉くしけふたみの浦の貝しけみまきゑにみゆる松のむら立　輔弘

生浦　〔桜あさ〕

五五五　古今　おほのうらにかた枝さしおほひなるなしのなりもならすもねてかたらはん

鳴呼浦　持統天皇伊勢国に行幸[5]の時都に留て読侍ける

五五六　万玉　おみの浦に船のりすらむつまとものの玉ものすそに塩みつらんか　人丸

尾張国　愛智郡[6]　〔うつせ貝〕

五五七　新古　浦人の日も夕暮になるみかたかへる袖より千鳥なくなり　通光

五五八　・　君こふとなるみの浦のはまひさきしほたれてのみ年をふる哉　俊頼

阿波手浦　〔海士のもしほ火〕

五五九　金　名にたてるあはての浦のあまたにもみるめはかつく物とこそきけ　雅光

五六〇　・　我恋はあはてのうらのうつせ貝むなしくのみもぬるゝ袖かな　後法性寺入道」四三ウ

駿川国

田籠浦　富士郡　〔玉もかり[7]　もしほの火[8]〕

五六一　万新古　たこのうらにうち出てみれば白妙の富士の高ねに雪はふりつゝ　赤人

五六二　拾　たこの浦に霞のふかく見ゆる哉もしほの煙立やそふらむ　能宣

三穂浦　同郡

五六三　万　かさはやのみほのうらはのしらつゝし見れともあかすなき人おもほゆ　阿辺宮人

五五六　新後―新古(竜)

五五七　続古―続(叡)新古(竜)よそにみて―よそにのみ(叡竜)

1　上西門院―上東門院(叡竜)・―鳥羽院(叡竜)いつきと―いつきに(叡)　2　唐崎に―唐崎(叡)

五六〇　続後撰―続後(叡)続古(竜)花の―花も(叡)

3　賢田浦―堅田浦(叡)

4　・―野洲郡(叡竜)

下総国

真間浦　葛飾郡

五五四　万新勅　かつしかのまゝのうらはをこく船のふな人さはくなみたつらしも

五五五　諷　かつしかのまゝの浦かせ吹にけり夕浪こゆるよとのつきはし　朝村

常陸国

霞浦

五五六　新後　ほのかにもしらせてし哉あつまなる霞のうらの海士のいさり火　順徳院

高間浦

五五七　続古　よそにみて袖やぬれなんひたちなるたかまの浦の沖津白浪　光俊

近江国

滋賀浦　滋賀郡　[1]上西門院・第一皇女御母侍賢門院賀茂のいつきと　[2]申けるをかいらせ給ひて唐崎に祓し給ひけるとき

五五八　千　きのふまてみたらし川にせし御祓しかのうら浪たちそかはれる

五五九　新古　しかの浦やとをさかり行浪間より氷ていつる在明の月　家隆

五六〇　続後撰　いにしへの鶴のはやしにちる花のにほひをよする志賀のうらかせ

真野浦　同郡

五六一　まのゝ浦夜舟こき出る音深て入江の浪に月そさやけき　法眼源承

賢田浦[3]　同郡

五六二　続拾　つゐにさてうき名やたゝむあふことはさてもかたゝの浦のあた浪　家成

三上浦・[4]

五六三　千　さゝ浪やくにつみ神の浦さひてふるき都に月ひとりすむ

前関白大政大臣

五六四　・—万(叡)　　塩津浦　浅井郡

五六四　・　たかしまのありその海を漕過てしほつすかうらいまかこゆらむ　」四三ウ

五六五　・—(叡)すらむ—しけむ(竜)うらに—浦より(竜)こき出る—漕てこし(叡竜)　　香取浦　高嶋郡

五六五　・　いつくにかふなのりすらむたか嶋のかとりのうらにこき出る船

五六六　・—千(竜)雅光—ナシ(叡)　　野嶋浦

五六六　・　玉もかるのしまの浦のあまたにもいとかく袖はぬるゝ物かは　雅光

陸奥国

五六七　千—同(竜)　　塩竈浦　宮城郡　〔浦漕船　浮嶋の松　白川の関〕

五六七　千　しほかまのうらふくかせに霧はれてやそ嶋かけてすめる月影　清輔

五六八　海士か—あまや(叡竜)　　五六八　新古　いにしへの海士かけふりとなりぬらむ人めもしらぬしほかまの浦

一条院皇后宮

5　都—ナシ(叡)　6　信夫郡—ナシ(叡竜)　　信夫浦　〔都[5]　信夫[6]浦〕

五六九　同—新古(叡)　　五六九　同　うちはへてくるしき物は人めのみ忍ふの浦の海士のたくなわ　讃岐

7　・—名取郡　　十府浦　・[7]

五七〇　・—新古(竜)・—為仲(叡)　　五七〇　・　見し人もとふのうらかせをとせぬにつれなくすめる秋の夜の月　・

出羽国

8　あまのかるも—ナシ(叡竜)　　袖浦　〔あまのかるも[8]〕　」

五七一　・—金(叡竜)読人不知—読不(叡竜)　　五七一　・　なかるする海士のしわさをみるからに袖の浦にもたつ涙かな

読人不知

五七二　・—新勅(叡竜)　　五七二　・　ほしわひぬあまのかるもにしほたれてわれからぬるゝ袖のうら浪

具定母

1　気比―ナシ（竜）

五七三　・―万（叡竜）

※「多枯浦……」の前行に「越中国」とある（叡）。

2　水海―氷郡（竜）

五七四　・―同（叡竜）いさゝかに―いさゝめに（叡竜）ねぬへし―ねぬへき（叡）

五七五　けふもかく―けふもかも（叡）浦波に―蒲半に（叡竜）あらむ―あるらん（叡）

五七六　・―拾（叡）拾遺十一（竜）読人不知―読不（叡竜）

3　同郡―同（竜）

五七七　あかすなり―あかすけり（竜）

4　与謝郡―ナシ（叡竜）

5　い□り―ナシ（叡）いさり（竜）

※　五七八と五七九の順序が逆（叡）。

五八〇　・―古（叡竜）

越前国

気比浦　敦賀郡　書様　日本紀延喜式　簡版　気比　寛平拾　気比[1]

五七三　・　けひのうらによする白浪しき〳〵にいもか姿はおもほゆるかも

多枯浦　射水郡　水海也[2]

五七四　・　いさゝかに思てこしをたこの浦にさける藤なみ一夜ねぬへし

奈古浦　同郡　〔かもめ　貝　あひのかせ〕

五七五　なこのうらの朝気の名残けふもかくいその浦波にみたれてあらむ

有礒浦　同郡　〔葛アリ〕

五七六　・　かくてのみありその浦のはまちとりよそに鳴つゝ恋やわたらむ

読人不知

苧生浦　同郡[3]

五七七　万　おろかにそわれは思ひしおふの浦のありそのめくりみれとあかすなり

福丸

一四四ウ

丹後国

与謝浦　与謝郡[4]　〔い□り[5]〕

五七八　新勅　うかりけるよさの浦浪かけてのみ思ふにぬるゝ袖をみせはや

五七九　続古　はしたてやよさのふけゐのさ夜ちとりとをよる興にさゆる月かけ

内大臣

但馬国

二見浦

五八〇　・　夕月夜おほつかなさを玉くしけふた見のうらは明てこそみめ　兼輔

出雲国

五八二　夜とゝもに―夜と友に(竜)

五八五　同―ナシ(竜)

五八六　あかしかた―明かたの(叡)

五八九　むもれ木―むろの木(竜)とこにあれとも―とにあれとも(叡)とこよにあれと(竜)

五九〇　新勅―ナシ(叡)あひみし―あひよし(叡)

五九一　・―後撰(叡竜)連敏法師―ナシ(叡竜)

袖師浦　〔うつせ貝　引網の〕

五八一　続古　恋すてふ袖しの浦にひくあみのめにたまらぬはなみたなりけり　成実

播磨国

明石浦　〔たくものけふり〕

五八二　拾　夜とゝもに明石のうらの松はらは浪をのみこそよるとしるらめ　為憲

五八三　新古　あまを船とまふきかへす浦かせにひとりあかしの月をこそみれ　俊頼

五八四　続古　舟とむる明石の浦のあり明に浦よりをちのさほしかの声　俊成〕

五八五　同　明石かた浪の音にやかよふらん浦よりをちの岡の松かせ　鷹司院帥

二見浦

五八六　新古　あかしかたふた見の浦による浪の袖うちぬれて興津嶋人　実方

藤江浦　〔いさり　鱸釣〕

五八七　同　かもめゐるふちえのうらのおきつすに夜舟いさよふ月のさやけさ　顕仲

五八八　諷　吹かせに藤江のうらを見わたせは浪は梢の物にそありける　俊頼

備後国

鞆浦

五八九　万　わきもこか見しとものうらのむもれ木はとこにあれとも見し心そなき

五九〇　新勅　とものうらの磯のむろの木見ることにあひみしいもはわすられんやは　旅人

紀伊国

若浦　〔おもかはりせぬ　家の風〕

五九一　・　わかのうらに袖さへぬれてわすれ貝ひろへといもはわすられなくに

五九二　・—同(叡竜)うらには—うらなみ(竜)・—連敏法師(叡竜)

五九三　・—新古(叡竜)松の葉こしを—松の葉こしに(叡竜)

五九四　・—同(叡竜)

五九五　・—万(叡竜)

1　牟婁郡—ナシ(叡竜)

五九八　新勅—万新勅(叡竜)読人不知—読不(叡竜)

五九九　・—新勅(叡)

六〇〇　同—新勅(竜)

連敏法師

五九二　・　老の浪よせしと人はいとへとも待らむものをわかのうらには　・」四五ウ

五九三　・　わかのうらを松の葉こしをなかむれは梢によする海士のつり舟　寂蓮法師

五九四　・　わかのうらや興つ塩あひにうかひ出るあはれ我身のよるへしらせよ　家隆

三名部郡　日高郡　幸紀伊国時

五九五　・　みつなへの浦嶋見つるかしまなる釣する海士をみてかへりこむ

三熊野浦　牟婁郡[1]

五九六　新古　みくまのゝ浦よりをちにこく船のわれをは余所にへたてつる哉　伊勢

五九七　新勅　みくまのゝ浦はの松のたむけ草いく世かけきぬ浪のしらゆふ　七条院

形見浦

五九八　新勅　もかり船沖こきつらしいもか嶋かたみのうらにたつかけるみゆ　読人不知

五九九　・　かせさむみ夜の深行はいもか嶋かたみのうらにちとりなくなり　鎌倉右大臣

淡路国

松帆浦

六〇〇　同　こぬ人をまつほの浦の夕なきにやくやもしほの身もこかれつゝ　定家」

讃岐国

松賀浦

六〇一　後拾　松山のまつかうらかせ吹よせはひろひて忍へこひわすれかゐ　定頼

六〇二　同―ナシ(竜)

2　糟屋郡―次行の「志加浦」の下(叡竜)　3　つり いさり火―いさり火　つり(竜)

六〇三　くしけのをくし―つけのをくしを(叡竜)

六〇四　いさやこく―いさやこゝ(叡)いまやこら(竜)

六〇五　心して―心ちして(竜)

六〇六　・―万十二(竜)しら浪―しく波(叡)しき波(竜)

六〇七　万後撰―続後(叡)後撰(竜)

六〇二　同　たえぬよりしほりもあへす衣手にまたきなかけそ松かうら浪　光成

筑前国　糟屋郡[2]　〔つり[3]　いさり火〕

六〇三　万新勅　しかの海士のめかりしほやきいとまなみくしけのをくしとりも見なく　石川女郎

に

香椎浦　〔あやすき〕

六〇四　万　いさやこくかしゐのかたにしろたへの袖さへぬれてあさみつみてん　旅人

松浦

六〇五　万続古　さ夜ふけてほり江こくなるまつら船かち音たかしみをはやみかも　人丸

千賀浦

六〇六　後拾　ちかのうらに浪よせかへる心してひるまなくてもくらしつる哉　道信

六〇七　新後　かひなしやみるめ斗を契りにてなを袖ぬらすちかの浦浪　師良

壱岐国

海松目浦

六〇八　新後　とはゝやなみる目のうらにすむ海士の心の中に物や思ふと　西園寺入道

未勘国

鳥羽田浦

六〇九　・　ほとゝきす鳥羽田のうらにしら浪のしは〳〵君を見んよしも哉

三嶋浦

六一〇　万後撰　浪のうつみしまの浦のうつせ貝むなしきからに我やなりなん　好忠

六二　後拾―後撰(叡竜)

六三　・―新勅十一(竜)われ―わか(叡)読人不知―読不(叡竜)

六四　続後拾―続後(叡竜)

六五　くれしまに―暮るまに(竜)

六七　・―続古(叡竜)
※「渡」の前に「阿比浦」の項目あり(竜)。後記。
1　渡―渡卅一(叡)

六九　・―万新古(叡竜)読人不知―読不(叡竜)
2　・―佐野舟橋ハ上野　池ハ河内(竜)

蓑宇浦
六二　後拾　うかりけるみのうのうらのうつせ貝むなしき名のみたつはきゝきや　馬内侍
葦若浦
六三　・　あしわかのうらにきよせるしら浪のしらしな君はわれ思ふとも　読人不知
藻塩浦
六三　続古　たえすたつもしほの浦の夕煙いかなる時か思ひけたなん　光俊
古江浦
六四　続後拾　萬世のかけをならへて鶴のすむふる江の浦は松そ木たかき　相模
干潟浦
六五　玉　くれしまにすゝきつるらし夕塩のひかたの浦に海士の神みゆ　為家
床浦
六六　後拾　やくとのみ枕のうへに塩たれて煙絶せぬ床のうらかせ　相模
六七　・　さほひめの床のうらかせ吹ぬらし霞の袖にかゝるしら浪　光俊
渡[1]　付門　迫門　奈太　輪田
山城国
淀渡
六八　続千　朝霧によとのわたりを行船のしらぬわかれも袖ぬらしけり　土御門院
大和国
佐野渡　城上郡　・[2]
六九　・　くるしくもふりくる雨かみ輪かさきさのゝわたりにいゑもあらなくに

六二一　これや―そや（叡）

六二二　・―（叡竜）まくりか―枕か（叡竜）わたりを―渡の（叡竜）

六二四　・―続古（叡竜）寂蓮法師―寂蓮（叡竜）

3　・―歌（叡）被人―取入（叡）入（竜）

※「播磨国」の前行に「門卅二」とあり（叡）。

六二六　なるち―なかち（叡竜）。

読人不知

六二〇　新古　駒とめて袖うちはらふかけもなしさのゝわたりの雪の夕暮　定家」四七ウ

摂津国

難波戸　西生郡

六二一　後撰　なには戸をけふこそみつのうらことにこれやこの世をうみわたる舟　業平

蘆屋奈太　菟原郡

六二三　続古　あしのやのなたの塩やきあまのとををし明かたそ春はさひしき　順徳院

下総国

久我渡

六二三　・　まくりかのこかのわたりをからかちのをとたかしもなねなくこゆへに

近江国

滋賀大輪田

六二四　・　かち人の汀の氷ふみならしわたれとぬれぬしかの大わた　寂蓮法師

美濃国

宇留馬渡　[1]歌雖無渡字五代集・枕并八雲御抄被入渡部仍載之

五三五　後拾　あつまちやこゝをうるまといふ事は行かふ人のあれはなりけり　」

播磨国

明石門

六二六　万　あまさかるひなのなるちをこきくれはあかしのとよりやまと嶋みゆ　人丸

1　月も藻にすむ―ナシ（竜）

六二九　・―新古（叡竜）・―後鳥羽院（竜）

六三〇　続後拾―続後撰（叡）後鳥羽院―ナシ（竜）

※　六三一の歌なし（叡）。

六三一　続古―金（叡竜）永縁―承円（叡）永円（竜）

2　興―興卅三（叡）次行の「摂津国」の上（竜）。

六三三　なるとの―なるをの（叡竜）実家―定家（叡竜）

六三四　あま雲―白雲（叡竜）

3　菟原郡―ナシ（叡）

六二七　同　ともし火のあかしのせとのいる日にや君わかれなんいへのあたりみて　同

備前国

虫明迫門〔月も藻にすむ〕[1]

六二八　新勅　浪たかきむしあけのせとに行舟のよるへしらせよ興津塩かせ　後京極

紀伊国

由良戸　海部郡

六二九　・　ゆらのとをわたる船人かちをたへ行ゑもしらぬ恋の道かな　・

六三〇　続後拾　朝またきかすみもやへの塩風にゆらのとわたる春のふな人　後鳥羽院

阿波国

鳴門〔濱千鳥〕

六三一　後撰　なるとよりさしいたされし舟よりもわれそよるへもなき心ちする　滋幹」四八ウ

六三三　続古　おもはんとたのめし人の昔にもあらすなるとのうらめしき哉　僧正永縁

興[2]

摂津国

鳴尾興　武庫郡

六三三　千　けふこそは都のかたの山のはも見えすなるとのおきに出ぬれ　実家

六三四　続古　いこま山よそになるおの興にいてゝ目にもかゝらぬ峯のあま雲　家長

蘆尾興　菟[3]原郡

六三五　新勅　はるかなる蘆やの興のうきねにも夢路はちかき都なりけり　俊成

4　嶋—嶋卅四（叡）

嶋[4]

山城国

橘小嶋　宇治郡[5]　〔歌冬〕

六三六　・　袖の香や猶のこるらむ橘のこしまによせし夜半の浮舟　大上天皇

河内国

橘嶋

六三七　万　たちはなの嶋にしをれはかはとをみさらさてぬいし我した衣」

摂津国

田蓑嶋　西生郡　〔海士衣　たつ〕

六三八　拾遺　雨によりたみのゝしまをわけ行は名にはかくれぬ物にそありける　貫之

六三八　拾遺—古拾遺（叡）古（竜）わけ行は—分行と（叡）分行は（竜）

寛平之菊にたみのゝ嶋の菊をよみ侍ける

六三九　・　たみのとも今はもとめし立帰り花のしつくにぬるとおもへは　読人不知

六三九　・—玉（叡竜）読人不知—読不（叡竜）

三嶋〔・[6]　友鶴〕

6　・—玉藻（叡）

六四〇　万　みしますけいまたなへなりときまてはきすやなりなむみしますかさ

六四〇　なへなり—なへたる（叡）ときまては—ときまたは（竜）

六四一　拾遺　ほのかにも我をみしまのあくたひのあくとや人の音信もせぬ

六四一　拾遺—拾（叡竜）

浦初嶋

六四二　・　あな恋しゆきてやみまし津の国にいまもありてふ浦の初嶋　戒仙法師

六四二　・—後撰（竜）

伊勢国

伊勢嶋

六四三　新古—ナシ(叡)新古雑中(竜)

六四四　続後撰—続後(叡竜)後京極—京極(叡)

六四五　・—万一(竜)

六四九　むれ入—むれゐる(叡竜)

六五〇　をしまか嶋—をしまか崎(叡竜)わたす—わたる(叡)海士—海(竜)

2　同郡—ナシ(竜)

六五一　新古—同(竜)

六四三　新古　けふとてやいそなつむらむいせ嶋やいちしの浦の海士のおとめこ　俊成〔九ウ〕

六四四　続後撰　伊勢嶋やしほひもしらす袖ぬれていけるかひなき世にもふる哉　後京極

志摩国

伊良虞嶋

六四五　・　うつせみの命をおしみ浪にぬれいらこか嶋の玉もかりしく　麻続王

近江国

野嶋　野嶋名所有四ヶ所　一所当国　一所陸奥国　一所紀伊国　一所淡路国

六四六　万玉　あふみ路の野嶋かさきのはまかせにいもかむすひしひも吹かへす　人丸

下野国

室八嶋　〔朝霞ふかく見ゆるや〕[1]八雲御抄云野より水の気の煙のやうにてたつなり非嶋とも依名入之

六四七　千　いかにせん室の八嶋にやとも哉恋のけふりを空にまかへん　俊成

六四八　新勅　くるゝ夜はえしの焼火をそれとみよむろの八嶋も都ならねは　定家

陸奥国

松嶋　宮城郡　〔しほくむあま　とまや　千島〕

六四九　詞花　松嶋や磯にむれ入あしたつのをのかさま〳〵見えしちよかな　元輔〔一〕

六五〇　新古　まつ嶋やをしまか嶋の夕かすみたな引わたす海士のたくなわ　親隆

雄嶋　同郡[2]

六五一　新古　秋の夜の月やをしまのあまのはら明かたちかき沖のつり舟　家隆

六五三　拾遺―拾(叡竜)卯花―みちのくの(叡竜)読人不知―読不(叡竜)
六五四　続後拾―続後(叡竜)
六五五　拾遺―拾(叡)ナシ(竜)
六五六　新古―後撰(竜)
3　たつ―ナシ(叡)
六五七　つとに―つとも(竜)いはまし―いはまをし(竜)
読人不知―読不(叡竜)
4　□したつ―あしたつ(叡竜)
六五九　あまも―あまは(叡竜)素性法師―素性(叡竜)

六六一　古今―古(叡)

六五三　同　こゝろあるをしまの海士のたもと哉月やとれとはぬれぬものから　宮内卿
雛嶋　同郡　〔まつそ久しき〕
六五三　拾遺　卯の花のさけるかきねは卯花まかきか嶋の浪かとそ見る　読人不知
六五四　続後拾　夕やみの海士のいさり火見えつるはまかきか嶋の蛍なりけり　好忠
浮嶋　同郡
六五五　拾遺　わたつみの浪にもぬれぬうき嶋の松に心をよせてたのまん　能宣
六五六　新古　塩まかのまへに浮たるうき嶋のうきて思のある世なりけり　山口女王
美豆小嶋　〔たつ〕[3]
六五七　古今　をくろさきみつの小嶋の人ならは都のつとにいさといはまし　読人不知
六五八　続古　人ならぬ岩木もさらにかなしきはみつの小嶋の秋の夕暮　順徳院
松賀浦嶋　〔海士のもしほ火　□[4]したつ〕　五〇ウ
六五九　後撰　をとに聞松かうら嶋きて見れはむへも心あるあまもすみけり　素性法師
六六〇　千　浪間より見えし気色そかはりぬる雪降りにける松かうら嶋　顕照
都嶋
六六一　古今　おきのゐて身をやくよりもかなしきは都嶋へのわかれなりけり　小町
丹後国
浦嶋　与謝郡
六六二　千　もゝちたひうら嶋か子はかへるともはこやの山はときはなるへし　俊成

六六四　水をはこひし—水をは恋し(竜)
六六五　読人不知—読不(竜)
※　六六五の歌なし(叡)
1　備中国—ナシ(叡)
六六六　大伴卿—ナシ(叡)
※　「吉備小嶋」の項目は「大嶋」の前(叡)
2　雖—ナシ(叡竜)　3　・—但(叡竜)
六六七　・—万(叡)かなしも—かなしさ(叡)
六六八　きませ—いませ(叡)
※　六七〇の歌なし(竜)
六七一　・—万(叡竜)

六六三　見すは又くしやしからまし水の江のうら嶋かすむ春のあけほの
備前国
大嶋
六六四　後撰　大嶋に水をはこひしはや船のはやくも人にあひみてし哉　朝綱
六六五　同　人れしすおもふ心は大しまのなるとはなしになけく比哉　読人不知
備中国[1]」
吉備小嶋
六六六　万　やまくちのきひのこしまを過ていかはつくしのこしまおもほえんかも　大伴卿
周防国
竹嶋　範頭卿歌枕雖[2]備中・[3]八雲御抄当国入之
六六七　・　たか嶋のあと白浪はよとめとも我はいへおもふいほりかなしも
紀伊国
玉津嶋　〔きしうつ浪〕
六六八　万　たまつしまよくみてきませあをによしならなる人のまちとはゝいかに
六六九　後撰　玉津嶋ふかき入江をこく船の浮たる恋も我はする哉　黒主
六七〇　続古　いかはかりわかのうらかせ身にしみてみやはしめけむ玉津ひめ　後京極殿
野嶋
六七一　・　我おもひし野嶋は見せつそこふかきあこねのうらの玉そひろはぬ
淡路国
淡路嶋　〔立つなきわたる　かよふちとり〕

※ 六七三の前に一首あり(竜)。後記。

六七四 歌の右に「物の名やまとことは」と傍記(叡竜)

六七三 新古　秋ふかき淡路の嶋の有明にかたふく月をゝくるうらかせ　慈円」三一ウ

六七三 新勅　あはちしましるしのけふりみせわひてかすみをいとふ春の舟人　前内大臣

絵嶋　〔ふけゐの浦〕

六七四 千　春かすみゐしまか崎をこめつれは浪のかくとは見えぬけさかも　重綱

六七五 新勅　みなと山とことはにふくしほかせにゐしまの松はなみやかくらむ　後徳大寺左大臣

肥後国

多浪礼嶋

六七六 後撰　名にしおはゝあたにそおもふたはれ嶋浪のぬれきぬいく世きぬらむ

薩摩国

興小嶋

六七七 千　さつまかたおきの小嶋に我ありとおやにはつけよやへの塩かせ　康頼

未勘国

雪嶋

六七八 万　雪嶋の岩ほにおふるなてしこはちよにさきぬる君かかさしに　蒲生娘子

宇留間嶋・[4]

六七九 千　おほつかなうるまの嶋の人なれや我ことの葉をしらすかほなる　公任」

濱[5]

摂津国

長州濱　河辺郡

※ 六七八 かさしに―かさしよ(叡竜)

4 ・―非日本国云々(叡竜)

5 濱―濱卅五(叡)次行の「摂津国」の上(竜)

六八〇　読人不知—読不(叡竜)

※「和泉国」の前に「高師濱」の項目あり(竜)。後記。

六八一　古今—古(叡竜)

六八二　・—新古(竜)

六八三　古今—古(叡竜)・—兼輔(叡)

六八四　かはこし—かはにし(竜)

※　六八四の歌なし(叡)

六八五　同—後撰(叡)いせのうみ—いせの海の(叡)

六八七　後撰—同(竜)うと濱に—うとはまの(叡)能因法師　—能因(叡竜)

六八八　読人不知—読不(叡竜)

1　一切下総—ナシ(叡)一説下総(竜)

六八〇　恋わひぬかなしきこともなくさめむいつれなかすの濱へなるらん　読人不知

和泉国

興津濱　和泉郡

六八一　古今　君を思ひおきつの濱に鳴たつのたつねくれはそありとたにきく　忠房

六八二　・　ことゝへよおもひ興津の濱ちとりなく〳〵出し跡の月影　定家

伊勢国

長濱

六八三　古今　君か代はかきりもあらし長濱のいさこのかすはよみつくすとも　・

六八四　後撰　たかためにわれはいのちのなか濱の浦にやとりをしつゝかはこし　兼輔

千尋濱　」三ウ

六八五　同　いせのうみちいろの濱にひろふともいまはなにてふかひかあるへき　敦忠

六八六　君か代の数にくらへはなにならしちいちの濱のまさこなりとも

駿河国

有度濱　有度郡

六八七　後撰　うと濱にあまのはころもむかしきてふりけん袖やけふのはふりこ　能因法師

六八八　新古　うとはまのうとくのみやは世をはへむ浪のよる〳〵あひみてし哉　読人不知

上総国

黒戸濱　一[1]説か切下総

六八九　玉―玉八(竜)□孝□―菅原孝標朝臣女(叡)孝標女(竜)

六九〇　・―拾(叡竜)読人不知―読不(叡)兼氏(竜)

六九一　統後撰―統後(叡)統後拾(竜)兼氏―読不(竜)

六九二　・―兼盛(叡)

六九三　拾遺―拾(叡竜)兼盛―ナシ(叡)

六九四　おもへは―思へや(竜)

六九五　後撰―ナシ(叡)読人不知―読不(叡竜)

六九六　わひつゝ―わひゐる(叡)わひつる(竜)

2　「有〜歌」を次行に一行書(叡竜)有間の右に「孝徳天皇之子也」と傍記(竜)

六九八　・―万(叡)万二(竜)かへりこん―かへり見む(叡竜)

3　千尋濱　同郡―ナシ(竜)

六八九　玉　まとろまし今夜ならてはいつかみんくろとの濱の秋の夜の月　□孝□

近江国

打出濱　滋賀郡

六九〇　・　あふみなる打出の濱の浦に出てうらみやせまし人の心を　読人不知

六九一　統後撰　鳥の海はこほりとくらししら浪の打出の濱に春かせそふく　兼氏」

三津濱　同郡

六九二　新古　もろ人のねかひをみつの濱かせに心くたくるしての音かな　・

陪膳濱

六九三　拾遺　とゝこほる時もあらしなあふみなるおものゝ濱のあまのひつきは　兼盛

越中国

信濃濱　射水郡

六九四　万　こしの海のしなのゝ濱を行くらしなかき春日も忘ておもへは　家持

紀伊国

名草濱　名草郡

六九五　後撰　跡見れは心なくさの濱ちとり今は声こそきかまほしけれ　読人不知

六九六　新古　海士のかるみるめを浪にまかへつゝ名草の濱を尋わひつゝ　俊成

吹上濱　〔ちとり　小野浅芽〕

六九七　新勅　ときしあれは桜とそおもふ春かせの吹上の濱にたてる白雲　家隆

磐代濱　日高郡　[2]有間皇子自傷　結松枝歌

六九八　・　岩代の濱松か枝を引むすひまさしくあらは又かへりこん　」三ウ

[3]千尋濱　同郡

1　湖聞濱―聞濱(竜)

七〇〇　万―万十二(竜)濱松―たか濱(竜)

七〇一　同―同同(竜)日も―日の(竜)

七〇二　同―万(叡)まなこちに―真砂地に(叡)真砂路の(竜)なけかん―おもはん(叡竜)

2　塩竈卅六(叡)次行の「陸奥国」の上(竜)

3　宮城郡―ナシ(竜)

七〇三　続後撰―続後(叡竜)しるく―しるへ(竜)

七〇四　諷雅―諷(叡竜)

4　崎―崎卅七(叡)次行の「河内国」の上(竜)

七〇五　・―古(竜)兼覧王―ナシ(叡)

5　・―八部郡(竜)

六九九　拾遺　萬代をかそへん事はきの国のちいろの濱の真砂なりけり　元輔

豊前国

湖聞濱[1]　企救郡

七〇〇　万　とよ国のきくの濱松心にもなにしていもにあひしそめけん　人丸

七〇一　同　豊国のきくのなかはま行くらし日も暮ゆけはいもおしそ思ふ

真野濱

七〇二　同　とよくにのまの丶はまへのまなこちにまなこにしあらはなにかなけかん

塩竈[2]

陸奥国

千賀塩竈　宮城郡[3]

七〇三　続後撰　我思ふ心もしるくみちのくのちかの塩かまちかつきにけり　山口女王

七〇四　諷雅　き丶てたに身こそこかるれかよふなる夢のたゝ路のちかのしほかま　為家」

崎[4]

河内国

伊加ゝ崎

七〇五　・　かちにあたる浪のしつくを春なれはいか丶さきちる花と見さらむ　兼覧王

摂津国

輪田御崎[5]・

七〇六　玉　夕つくひわたのみさきをこく船のかたほにひくやむこのうらかせ

七〇七　さちは―松は(竜)

七〇八　・―千(叡竜)

6　・―注記あり(竜)。後記。

7　・―那阿郡(竜)

8　「しるしの…」―七一一の前行(叡竜)

七一〇　拾遺―拾(叡)拾十(竜)たちへたつらん―語りつたへらん(竜)

七一二　箱崎―相崎(叡)

七一三　万―万七(竜)かねの―かねか(叡)

9　礒―礒卅八(叡)次行の「甲斐国」の上(竜)

七一三　古今―古(叡竜)しほの―しほの山(叡竜)

10　餘綾郡―次行の「小餘綾礒」の下(叡竜)

入道前大政大臣

近江国

滋賀唐崎　〔御祓　綱〕

七〇七　万　さゝ浪やしかのからさきさちはあれと大宮人の舟まちかねつ　人丸

七〇八　・　夜もすから浦こく船は跡もなし月そのこれるしかのからさき　丹後

山城国

松崎

七〇九　諷　ちとせふる松かさきにはむれゐつゝたつさへあそぶこゝろあるらし　元輔

筑前国・[6]

箱崎・[7]しるし[8]の松をよみ待ける

七一〇　拾遺　いく世にかたちへたつらんはこさきの松のちとせのひとつならねは　重之

〔五四ウ〕

七一二　ちはやふる神代にうへし箱崎の松は久しきしるしなりけり　法印行清

金御崎

七一三　万　ちはやふるかねの御崎をすくれとも我はわすれすしかのすめかみ

礒[4]

甲斐国

指出礒　〔興津塩　秋の夜の月〕

七一三　古今　しほのさしての礒にすむちとり君か御代をはやちよとそなく　雅言

相模国　餘綾郡[5]

小餘綾礒　〔玉藻　ちとり〕

七二四　同—古(叡竜)

1　潟—潟卅九(叡)次行の「尾張国」の上(竜)

2　愛智郡—前行の「尾張国」の下(叡)

3　蚶潟—蚶潟(竜)[象イ]

七二六　後拾—後撰(叡)後拾九(竜)きさかたや—きさかたの(叡)能因法師—能因(叡竜)

七二七　拾遺—拾(叡竜)読人不知—読不(叡竜)

※　七二七の後に一首あり(竜)。後記。

4　江—江四十(叡)次行の「山城国」の上(竜)

5　宇治郡—ナシ(竜)

七二八　・—万(竜)なるなり—ひゝくなり(竜)

七二九　万続千—万拾遺(竜)

※　七二九の後に三首あり(叡)。後記。

七二四　同　玉たれのこかめやいつらこよろきのいその浪わけ興に出にけり　敏行

潟[1]

尾張国

鳴海潟　愛智郡[2]

」

七二五　新古　さ夜ちとり声こそちかくなるみかたかたふく月にしほやみつらむ　季能

出羽国

蚶潟[3]

七二六　後拾　世の中はかくてもへけりきさかたや海士のとまやをわか宿にして　能因法師

石見国

石見潟

七二七　拾遺　石見かたなにかはつらきつらからはうらみかてらにきても見よかし　読人不知

江[4]

山城国

長掠入江　宇治郡[5]

七二八　・　おほくらの入江なるなりいめ人のふしみの田井にかりわたるらし

摂津国

堀江

」云ウ

七二九　続千　ほり江には玉しかましを大君の御舟こかんとかねてしりせは　井手左大臣

6　嶋上郡―ナシ(叡)

七三　宿―岩(叡)

七三　同―金(叡竜)

七三　千―この部分虫食い(竜)

七三五　良道―良邇(竜)

7　吉城郡―ナシ(叡)荒城郡(竜)

七三六　万―万十二(竜)しらま弓―梓弓(叡)あつさ弓(しらま万)

三嶋江　嶋上郡[6]

七三〇　万拾遺　みしまえの玉江のあしをしめしよりをのかとそ思ふいまたからねと　人丸

七三一　続後撰　みしま江の入江におふるしらすけのしらぬ人をもあひみつる哉　基俊

玉江

七三二　金　たまえにやけふのあやめは引つらんみかける宿のつまとみゆるは　公実

伊勢国

小野舊江

七三三　同　いせのうみをのゝふる江に朽はてゝ都のかたへかへれとそおもふ　師頼

遠江国

引佐細江

七三四　千　あふことはいなさほそ江のみほつくしふるききしるしもなき世なりけり　清輔

近江国

筑摩江　坂田郡

七三五　つくま江のそこのふかさをよそなからひけるあやめのねにて知哉」　良道法師

飛驒国

飛驒細江　吉城郡[7]

七三六　万　しらま弓ひたのほそ江のすかとりのいもにこひめやいをねかねつゝ

（竜）

陸奥国

玉造江　玉造郡

七二七　新勅　みなといりの玉つくり江にこく船のをとこそたてね君をこふれと　小町

越前国

玉江

七二八　新古　夏かりのあしのかりねそあはれなる玉江の月の明かたの空　俊成

丹後国

水江　与謝郡

七二九　同　あしかものさはく入江のみつのえの世にすみかたきわか見なりけり　人丸

播磨国

津田細江

七三〇　統後拾　五月雨につたの入江のみほつくしみえぬもふかきしるしなりけり　覚盛法師

佐比江

七三一　・　年をへてにこりたえせぬさひ江には玉もかへりていまそすむへき　忠岑

野[1]

山城国

嵯峨野　さか野にて馬より落てよみ侍ける

七三二　古今　名にめてゝおれる斗そをみなへし我おちにきと人にかたるな　遍昭

七三〇　統後拾―万（叡）統古（竜）入江―ほそ江（叡）覚盛法師―ナシ（叡）

※　七三〇の後に一首あり（叡）。後記。

七三一　・―後撰（叡）後撰十五（竜）

1　野―野四十一（叡）次行の「山城国」の上（竜）

七三二　古今―古（叡竜）

七三三　春はその日と―春はその人(竜)

七三五　遠久―久遠(竜)
　　遠久イ(竜)

七三六　拾遺―ナシ(叡竜)よとのに―よと野を(叡竜)

七三七　続千―続古(竜)みつのうへ野―水のうへの(叡)

七三八　古今―続千(叡)古(竜)

2　石田小野―石田野(竜)

七三九　千載―千(叡竜)顕輔―ナシ(叡)

3　・―注記あり(竜)。後記。

4　宇治郡―宇陀野郡(竜)

七四一　千載―千(叡竜)かりくらしつる―かり暮らし

七三三　小萩さく秋まてあらはおもひ出むさかのをやきし春はその日と　成輔

　　紫野　愛宕郡

七三四　後撰　しろたへのとよみてくらをとりもちていはひそゝむるむらさきの野に　長能

　　御生所野　同郡

七三五　諷　久かたのあまの岩ふねこきよせし神代の浦や今のみあれ野　賀茂遠久

　　淀野　乙訓郡

七三六　拾遺　ねやのうへにねさしとゝめよとあやめ草尋て引もおなしよとのに　輔弘

　　美豆野　同郡

七三七　続千　朝なゝみつのうへ野にかる草のきのふの跡はかくしけりつゝ　順徳院

　　深草野　紀伊郡

七三八　古今　ふか草の野への桜し心あらはことし斗はすみそめにさけ　峯雄

　　石田小野[2]　久世郡

七三九　千載　きゝすなくいはたのをのゝつほすみれしめさすはかりなりにける哉　顕輔

　　大和国

　　真野　城上郡[3]

七四〇　新勅　しらすけのまのゝ萩はらさきしより朝たつ鹿のなかぬ日そなき　基俊

　　宇陀野　宇治郡[4]

七四一　千載　やかたおのましろの鷹を引すへてうたのとたちをかりくらしつる

つゝ(叡竜)

七四三　万—万十二(竜)かけろふのをのに—かけろふを
のに(叡)かけろふをのに(竜)かるかやの—
苅萱の(竜)よしそなき—よしそおほき(竜)

七四四　新後—新勅(叡竜)こめて—かけて(叡竜)

1　十市郡—ナシ(竜)

七四五　後拾—後撰(叡竜)わけゆけは—分け行は(竜)素
性法師—素性(竜)

七四六　千載—千(竜)やきすてゝ—焼捨し(叡竜)

七四七　能因法師—能因(叡竜)

七四八　思ひ草—おもふほと(叡)

七四九　読人不知—読不(叡竜)

七五一　範兼—ナシ(叡)

七五二　吹ことに—吹からに(叡)萩か—萩の(竜)読人不
知—読不(叡竜)

七四三　続千　はし鷹の身よりのつはさ身にそへて猶雪はらふ宇陀の御かりは　家隆　仲実
蜻蛉小野　」五七ウ

七四三　万　みよしのゝかけろふのをのにかるかやの思ひ乱てぬるよしそなき

七四四　新後　しられしなかすみにこめてかけろふのをのゝわか草下にもゆとも　為家
磐余野　十市郡[1]

七四五　後拾　いはれ野の萩の朝露わけゆけは恋せし袖の心ちこそすれ　素性法師
布留野　山辺郡

七四六　千載　やきすてゝふるからをのゝ真葛原玉まく斗なりにける哉　定通

七四七　同　いそのかみふりにし人を尋ぬれはあたなる宿にすみれつみけり　能院法師
古柄小野

七四八　新勅　したにのみいはてふるのゝ思ひ草なひくお花はほにいつれとも　国通

七四九　古　いそのかみふるこからをのゝもとかしはもとの心はわすられなくに　読人不知

七五〇　水無月の空ともいはし夕立のふるからをのゝならの下影　覚盛法師
巨勢野　葛上郡

七五一　新勅　玉つはきみとりの色も見えぬまてこせの冬野は雪ふりにけり　範兼
阿多大野　」

七五三　万玉葉　真葛原なひく秋かせ吹ことにあたのおほのゝ萩か花すり　読人不知

七五三　続後撰―続後(叡竜)

2　交野郡―交野(竜)

七五四　詞花―詞(叡竜)

七五六　同―万(叡)すりつれ―すりつけ(叡)すり付(竜)

七五九　いつくなるらむ―まついそくらむ(竜)為家―時家(叡)

七六〇　拾遺―哈(叡竜)さゝはら―ふし原(竜)しきのはね―鳴の羽(竜)

七六一　万―万一(竜)興風―ナシ(竜)

七六二　金葉―金(叡竜)

3　・―注記あり(竜)。後記。

七六三　古今―古(叡)あはれとそみる(むつましき歟イ)―哀とそおもふ(叡)あはれとそみる(竜)・―読不(竜)

七五三　読後撰　をく露もあたの大野ゝまくすはらうらみかほなる松虫の声　後鳥羽院

河内国

交野　交野郡[2]

七五四　詞花　霰ふるかたのゝみのゝかり衣ぬれぬやとかす人しなけれは　長能

七五五　新古　又やみんかたのゝみのゝ桜かり花の雪ちる春の明ほの　俊成

七五六　同　うつらなくかた野にたてるはし紅葉ちりぬ斗に秋かせそふく　親隆

摂津国

遠里小野　住吉郡

七五七　万　すみよしの遠里をのゝまはきもてすれる衣のさかりすきゆく

浅澤小野　同郡

七五八　同　住よしのあさゝはをのゝかきつはたきぬにすりつれきんに日しらすも　人丸

七五九　続千　下もえやいつくなるらむしら雪のあさゝはをのに若菜つむなり　為家

猪名野　河辺郡

七六〇　拾遺　しなかとりいなのさゝはらとひわたるしきのはね音おもしろき哉　」五八ウ

遠江国

引馬野

七六一　万　ひくま野に匂ふ萩はらいりみたる衣にほはせ旅のしるしに　興風

七六二　金葉　春かすみ立かくせともひめ小松ひくまの野へに我はきにけり　匡房

武蔵国

武蔵野[3]・

七六三　古今　むらさきの一もとゆへにむさしのゝ草はみなからあはれとそみる(むつましき哉イ)・

七六四　お花かすゑ—尾花かもと(叡)道方—通方(叡)
※　七六四の後に一首補入(竜)。後記。

七六四　続古　むさし野は月のいるへき峯もなしお花かすゑにかゝる白雲　道方
立野
七六五　後撰　秋霧のたちのゝこまをひくときは心にのりて君そ恋しき　忠岑
七六六　新勅　日をへては秋かせさむみさほしかのたちのゝまゆみ色付にけり　鎌倉右大臣
三吉野　入間郡
七六七　続後拾　みよしのゝたのむのかりもひたふるに君かかたにそよるとなくなる　読人不知
近江国
粟津野　滋賀郡
七六八　後拾　あはつ野ゝすくろのすゝきつのくめは冬たちなつむ駒そいはる　権僧正静円
蒲生野　蒲生郡
七六九　拾遺　かまふのゝ玉のを山にすむ鶴の千年は君か御世のかすなり　読人不知
七七〇　続後拾　きのふまて冬こもりにしかまふ野にわらひのとくも生にける哉　好忠
紫野　同郡
七七一　万　あかねさすむらさきの雪しめのゆき野もりは見すや君か袖ふる
七七二　続古　ねられすやつまをこふらむしめの雪むらさきのゆき鹿そ鳴なる　大上天皇
筑摩野　坂田郡
七七三　万　つくま野におふるむらさききぬにそめいまたきすして色に出にけり　家持

七六九　拾遺—拾(叡竜)読人不知—読不(叡竜)
七七〇　続後拾—続後撰(竜)かまふ野に—蒲生野の(叡)
七七一　むらさきの雪—むらさきのゆき(竜)
七七二　しめの雪—しめのゆき(叡竜)

七六七　続後拾—後拾(叡)続後撰(竜)読人不知—読不(叡竜)

1　勝野―陸野(竜)

七七四　読人不知―読不(叡竜)

七七六　・―古(叡竜)

七七七　統後撰―万統後(叡)統後拾(竜)郭公―時雨(叡)
読人不知―統不(叡竜)

2　・―或抄武蔵国入之(竜)

七七八　万―万十一(竜)あさはの野へに―あさはのゝらに(叡竜)

※　七七八の後に一首あり(竜)。後記。

七七九　・―同(竜)

※　「横野」の前に「武蔵国多麻横野」「河内国玉田横野」の項目あり(竜)。後記。

七八〇　万―万十二(竜)。

3　宮城郡―宮城野(竜)

七八一　千載―千(叡)ナシ(竜)

勝[1]野　高嶋郡

七七四　万新勅　いつくにか我やとりせん高嶋のかちのゝはらにこの日くらしつ　読人不知

七七五　新勅　くれは又わかやとりかは旅人のかちのゝはらの萩の下露　前内大臣　」五九ウ

宇祢野

七七六　・　あふみより朝たちくれはうねのゝにたつそなくなる明ぬこの夜は

信濃国

菅荒野

七七七　統後撰　しなのなるすかのあらのゝ郭公なく声きけは時過にけり　読人不知

浅羽野　・

七七八　万　くれなゐのあさはの野へにかるかやのつかのまもなくわか忘れめや

上野国

佐野

七七九　・　かみつけのさのゝくゝたちおりはやしわれはまたんかことしこすとも

横野

七八〇　万　むらさきのねはふよこのゝ春の野に君をかけつゝ鶯そなく

陸奥国

宮城野　宮[3]城郡

七八一　千載　さま〳〵に心そとまるみやきのゝ花の色〳〵むしの声〳〵　」　俊頼

七八二　新古　あらしふくかせはいかにと宮城野ゝ小萩かうへを人のとへかし　赤染

越中国

七八三　拾遺—後拾(叡)後□(竜)

1　天田郡—ナシ(叡)

七八四　・—金(叡竜)見ぬ—見す(叡竜)

七八五　をしなみ—をしなへ(叡)なるけく—なかけく(叡)けなかく(竜)

七八六　ひとへくに山の—ひとくに山の(叡)秋津野に—秋津のゝ(叡竜)

七八七　古今—古(叡竜)つらゝ—つゝら(叡)

2　牧—牧四十二(叡)次行の「山城国」の上(竜)

3　美豆御牧—美豆野御牧(叡)

七八九　後拾—後撰(竜)

三嶋野　謝水郡

七八三　拾遺　みしまのゝ浅芽かうはゝ秋かせに色付ぬとやうつら鳴らん　基

丹波国

生野　天田郡[1]

七八四　・　おほえ山いく野ゝ道のとをけれはまたふみも見ぬあまのはしたて　小式部内侍

播磨国

印南野　印南郡

七八五　万　いなみのゝ浅芽をしなみさぬる夜のなるけくあれはいゑのしのふる

紀伊国

秋津野　日高郡

七八六　つねならむひとへくに山の秋津野にかきつはたおし夢にみるかも　一六〇ウ

未勘国

引野

七八七　古今　あつさ弓ひきのゝつらゝすゑつゑに我思人にことのしけゝん　読人不知

手枕野

七八八　続古　しら露のたまくらの野ゝをみなへし誰にかはせる今朝の名残そ　経平

牧[2]

山城国

美豆御牧[3]　乙訓部

七八九　後拾　五月雨にみつのみまきのまこも草かりほすひまもあらしとそおもふ

七九〇　同―後拾(叡)後撰(竜)

七九一　夕暮―夕立(叡)

4　国―国四十三(叡)　5　日本国―改行す(叡)

七九二　あらしとそ―嵐(あらし)とそ(竜)兼盛―兼城(竜)

七九三　新後―新古(竜)後京極殿―京極殿(叡)

七九四　古今―古(叡)

6　郡―郡四十四(叡)次行の「甲斐国」の上(竜)

七九五　あえてきぬ―あへてきね(竜)

七九六　・―拾物名部(竜)

信濃国

望月御牧　小縣郡

七九〇　同　あふ坂の杉のむらたちひく程はをふちに見ゆるもち月の駒

切原御牧　筑摩郡

七九一　続拾　夕暮の月よりさきにせきこえて木の下くらき切原の駒　知家

国[4]　日本国[5]

七九二　日のもとにさける桜の色見れは人のくにゝもあらしとそ思ふ　兼盛

七九三　新後　この比は秋津嶋人ときをえて君かひかりの月を見る哉　後京極殿

七九四　古今　しきましのやまとにはあらぬから衣ころもへすしてあふよしもかな　貫之

郡[6]

甲斐国

都留郡

七九五　後撰　君か代はつるのこほりにあえてきぬさためなき世のうたかひもなく　伊勢

陸奥国

名取郡

七九六　・　あたなりなとりのこほりにおりゐるは下よりとくることはしらぬか　重之

紀伊国

牟婁郡

相模

七九七　・—玉（叡竜）

七九八　なるへき—成けり（叡）なりける（竜）

1　里—里四十五（叡）次行の「山城国」の上（竜）

七九九　古今—古（叡竜）

2　乙訓郡—ナシ（竜）

八〇二　後撰—後拾（竜）

八〇三　山のはちかく—山のは遠（叡）

3　平郡—平群郡（叡竜）

七九七　・　まちわひぬいつかはこゝにきの国やむろのこほりははるかなれとも　「六一ウ

後白川院熊野御幸三十三度になりけるとき
みもとゝいふところにて

七九八　諷　有漏よりもむろにいりぬるみちなれはこれそほとけのみもとなるへき

里[1]

山城国

小野里　愛宕郡

七九九　古今　わすれては夢かとそおもふ思きや雪ふみて分て君をみんとは

八〇〇　金　雪の色をうはひてさける卯花にをのゝ里人冬こもりすな　公実

音羽里　同郡

八〇一　続古　時雨のみをとはの里はちかけれと都の人はことつけもなし　前内大臣

桂里　乙訓郡[2]

八〇二　後撰　さきの日にかつらのやとを見しゆへはけふ月の輪にくへきなりけり　輔親

大和国

十市里　十市郡

八〇三　新古　ふけにけり山のはちかく月さえてとをちのさとに衣うつ声　式子内親王」

菅原伏見里　葛上郡

八〇四　拾遺　恋しきになくさめかねてすかはらやふしみにきてもねられさりけり　重之

秋篠里　平郡[3]

八〇七　さゝ枕―さゝの唐(竜)

4　・―院(竜)

八〇九　こえたる―たもたる(竜)

5　飾磨郡―ナシ(叡竜)

※「近江国」の前行に「村四十六」(叡)

6　・―村(竜)

7　藤原―藤(叡)

8　御・女・―御母女歟(竜)

八〇五　新古　秋しのやと山の里やしくるらむ伊駒のたけに雲のかゝれる　西行

神南備里　同郡

八〇六　きよきせにちとりつまとふ山きはに霞立らむかみなひの里

河内国

交野里　交野郡

八〇七　新古　あふことはかたのゝ里のさゝ枕しのに露ちる夜半の床哉　俊成

近江国

朝日里

八〇八　くもりなきとよのあかりにあふみなる朝日の里は光りさしそふ　敦光

暗部里　延慶二年花園・[4]御時伏見院第一御子御母眼喜門院山階入道左大臣実雄公御女大菅会悠紀方稲春歌

八〇九　いにしへに今をくらふの里人は世ゝにこえたるみしねをそつく　俊光[六三ウ]

播磨国

飾磨里　飾磨郡[5]

八一〇　詞花　はりまなるしかまにそむるあなかちに人を恋しと思ふ比哉　好忠

・[6]近江国

青柳村　康治元年近衛院御時[7]鳥羽院御子御母美福門院贈左大臣藤原[8]長実御・女・大菅会悠紀方御屏風

八一一　玉　君か代は民の心の一かたになひきてみゆる青柳のむら　顕輔

千枝村

八一三　続古　さか木葉のちえたのむらにゆふしてゝとよのあかりの手向にそする　家衡

丹波国

八一三　・—新古(竜)

1　承保〜主基方—ナシ(叡竜)

2　橋—橋四十七(叡)次行の「山城国」の上(竜)

八一五　古今—古(叡竜)読人不知—読不(叡竜)

八一六　読人不知—読不(叡竜)

八一七　拾遺—拾(叡竜)くめの—くめちの(叡)同—読不(叡)

3　山辺郡—ナシ(叡竜)

八一八　諷雅——諷(叡竜)

八一九　万—万十一(竜)わかせこ—我いも(竜)人丸—万人丸(竜)

八二〇　ふる道—ふる江の(叡)

長田村

寿永元年安徳天皇御時（高倉院第一皇子御母　大相国清盛公　建礼門院平徳子入道　大嘗会主基方）

八一三　・　神代よりけふのためとややつかほになか田のいねをしなひそめけん　兼光

酒井村　多紀郡　[1]承保元年白川院大嘗会主基方

八一四　やすみしる我すへらきの御世にこそさかひの村の水とすみけれ　匡房

橋[2]

山城国

宇治橋

八一五　古今　わすらるゝ身を宇治橋の中絶て人もかよはぬ年そへにける　読人不知

大和国

久米岩橋

八一六　後撰　かつらきやくめちの橋にあらはこそおもふ心を中空にせめ　読人不知

八一七　拾遺　かつらきやわれやはくめの橋つくり明行ほとは物をこそおもへ　同

布留高橋　山[3]辺郡

八一八　諷雅　苔むしろ人のゆきゝの跡もなしわたらてとしやふるの高橋　前大納言

板田橋　高市郡

範兼卿五代集歌枕摂津国雖載之土御門院御製小墾田官

古道云々此宮者推古天皇之皇居大和国高市郡也仍当国載之

八一九　万　をはたゝのいたゝのはしのこほれなはけたよりゆかんこふなわかせこ　人丸[六三ウ]

八二〇　続古　をはたゝの宮のふる道いかならむたえにし後は夢のうき橋　土御門院

八二　千載―千(叡竜)

八三　・―新古(竜)はまに―橋に(叡)

八四　まのゝ浦の―まのゝ浦(叡)心たに―心にも(竜)

八五　わたりぬる哉―渡ける哉(叡)渡かねぬる(竜)

八六　詞花―詞(叡竜)八宮肥後―之肥前(叡)之肥後(竜)

4　葛飾郡―ナシ(叡)

八七　・―新勅(竜)

八八　かみつけの―かみつけや(竜)

摂津国

長柄橋　西生郡

八二　千載　なにこともかはり行める世中にむかしながらの橋はしら哉　道命法師

八三　同　行すゑをおもへはかなし津の国のながらの橋も名は残りけり　俊頼

八三　・　春の日のなからのはまに駒とめていつれか橋ととへとこたえぬ　恵慶法師

真野継橋

八四　万　まのゝ浦のよとのつき橋心たにおもふやいもか夢にし見ゆる

参河国

八橋　賀茂郡

八五　玉　さゝかにのくもてあやうき八橋を夕暮かけてわたりぬる哉　安嘉門院四条

遠江国

濱名橋　濱名郡

八六　詞花　つくは山ふかくうれしとおもふ哉はまなのはしにわたす心は　大皇大后八宮肥後

下総国

真野継橋　葛飾郡[4]

八七　・　かつしかのむかしのまゝのつき橋をわすれすわたる春かすみ哉　慈円

上野国

佐野船橋

八八　万　かみつけのさのゝ船橋とりはなしおやはさくれとわれさかるかへ

八二九　詞花—詞(叡竜)

八二九　詞花　夕きりにさのゝ船はしをとすなりたなれの駒のかへりくるかも　俊雅女

近江国

勢多橋　東栗本郡　西志賀郡

八二〇　新古—新古十一(竜)

八二〇　新古　まきのいたも苔むすはかりなりにけりいく世へぬらんせたのなかはし　匡房

信濃国

木曽懸橋

八三一　千載—千(叡竜)ふみゝるたひに—ふむたひに(叡)空仁法師—ナシ(竜)

八三一　千載　おそろしやきそのかけちのまろき橋ふみゝるたひに落ぬへき哉　空仁法師

久米路橋

八三二　拾遺—拾(叡竜)

八三二　拾遺　むもれ木は中むしはむといふめれはくめちの橋は心してゆけ　」六四ウ

陸奥国

緒断橋

八三三　続後撰—続後(叡竜)

八三三　続後撰　しら玉のをたえのはしの名もつらしくたけておつる袖の涙に　定家

常盤橋

八三四　・—金(竜)顕仲女—顕仲女(竜)　集ニハ大夫典侍

八三四　・　色かへぬ松によそへてあつま路のときははのはしにかゝる藤なみ　顕仲女

丹後国

1　海士橋立—天橋立(叡)海橋立(竜)　2　与謝郡—ナシ(叡)

海士橋立[1]　与謝郡[2]

八三五　・—千(叡)詞(竜)霞そわたる—霞わたれる(叡)読人不知—小式部(叡)読不(竜)

八三五　・　浪たてる松のしつえをくもてにて霞そわたるあまのはしたて　読人不知

3　関―関四十八（叡）次行の「摂津国」の上（竜）

4　・―八部郡（叡竜）

八三六　・―金（叡竜）あはちしま―淡路方（叡）

八三七　千載―千（叡竜）

5　蘆原郡―ナシ（叡）次行の「浄見関」の下（竜）

八三九　千載―千（叡竜）

6　足上郡―ナシ（竜）

7　多磨郡―ナシ（叡竜）

八四二　統□―ナシ（叡）統千（竜）

※　八四三の後に一首あり（竜）。後記。

8　もとに―もと（竜）

関[3]

摂津国

諏摩関　・[4]

八三六　・　あはちしまかよふちとりのなく声にいく夜ね覚ぬすまの関守　源兼昌」

伊勢国

鈴鹿関

八三七　千載　ふるまゝに跡絶ぬれはすゝか山雪こそ関の戸さしなりけれ　内大臣

川口関

八三八　くもりなく月もれとてや川口の関のあらかきまとをなるらむ　後嵯峨

駿河国　蘆[5]原郡

八三九　千載　清見かた関にとまらてゆく船はあらしのさそふ木葉なりけり　実房

八四〇　新古　きよみかた磯山つたひ行暮て心と関にとまりぬるかな　有房

相模国

足柄関　足[6]上郡

八四一　後撰　あしからの関の山路をゆく人はしるも知らぬもうとからぬかな　真静法師

武蔵国

霞関　多[7]磨郡

八四二　統□　おなしくは空にかすみのせきも哉雲ちの雁をしはしとゝめむ　為世」六五ウ

近江国

逢坂関　滋賀郡[8]　大江匡衡朝臣女のもとにまかりたりけるに琴をさしいたして侍けれはよみ侍ける

八四三　後拾—後撰(叡竜)
※　八四三の後に三首あり(叡)。後記。

八四六　同—千(叡竜)義家—ナシ(竜)
八四七　新勅—ナシ(叡)

八四八　詞花—詞(叡竜)
八四九　続後撰—ナシ(叡)続後(竜)順徳院—ナシ(叡)
八五〇　詞花—詞(叡竜)

八五一　新勅—ナシ(叡)とゝまらて—とゝまらす(竜)
1　市—市四十九(叡)次行の「大和国」の上(竜)

八四三　後拾　あふ坂の関のあなたもまたみねはあつまのこともしられさりけり
陸奥国
白川関　白川郡
八四四　千載　都にはまたあをはにて見しかとも紅葉ちりしく白川の関　頼政
八四五　同　見て過る人しなけれは卯花のさけるかきねや白川の関　季通
奈古曽関
八四六　同　吹かせをなこその関とおもへとも道もせにちる山桜かな　義家
八四七　新勅　みるめかなあまのゆきゝのみなとちになこその関も我すへなくに　小町
衣関
八四八　詞花　もろともにたゝまし物をみちのくの衣の関をよそにきく哉　和泉式部
八四九　続後撰　かせさゆる夜半の衣の関守はねられぬまゝに月やみるらん　順徳院」
下紐関
八五〇　詞花　あつま路のはるけき道を行めくりいつかとくへきしたひもの関　甲斐
豊前国
門司関
八五一　新勅　春秋の雲ゐのかりもとゝまらてたか玉つさのもしの関守　入道前大政大臣
市[1]
大和国
辰市　添上郡

八五三　拾遺—拾(叡竜)いまはた—いさまた(竜)

八五四　・—万(竜)
2　播磨国—ナシ(竜)
3　飾磨市—飾磨市(竜)
4　・—飾磨市(竜)

八五五　千載—千(叡竜)思ひを—思ひに(叡竜)
5　都—都五十(叡)　6　山城国—次行にあり(叡)

八五六　拾遺—ナシ(叡竜)船はしつる—船出はしつる(叡竜)

7　長保—長休(保歟竜)はしめて—始る(叡)申—ナシ(竜)

八五七　・—後拾(竜)・—長能(竜)

8　宇治郡—ナシ(叡竜)

八五八　やとれりし—やとりせし(叡)額田王—ナシ(竜)

9　相楽郡—ナシ(竜)

10　年—季(竜)

11　久迩都—ナシ(叡)

八五九　大宮人のうつりゐぬれは—大宮所うつりぬれは(叡)読人不知—読不(叡竜)

八五三　拾遺　なき名のみたつの市とはさはけともいまはた人をうるよしもなし　人丸

八五三　諷　しき嶋の道にわか名は辰の市やいさまたしらぬ大和ことの葉　定家

駿河国

安部市　安部郡

八五四　・　あきつへを我ゆきしかはするかなるあへの市ちにあひしこらはも

播磨国[2]

飾磨市[3]・[4]飾磨郡　」六ウ

八五五　千載　恋をのみしかまの市にたつ民のたえぬ思ひを身をやかへなん　俊成

都[5]　山城国[6]

八五六　拾遺　いそきつゝ船はしつる年のうちに花の宮この春にあふへく　資業

[7]一条院御時長保三年五月九日はしめて紫野に今宮と申いはひたてまつりけるときの歌

八五七　・　今よりはあらふる心ましますな花のみやこにやしろさためて　・

宇治都　宇治郡[8]

八五八　万新勅　秋の野にお花かりふきやとれりし宇治の都のかりいほしそ思ふ　額田王

久迩都　相楽郡[9]

聖武天皇御守天平十二年庚[10]遷都於山城国相楽郡

瓜原村三年辛己政治改瓜原宮号久迩都[11]

八五九　万新勅　みかのはらくにのみやこはあれにけり大宮人のうつりゐぬれは　読人不知

大和国

八六〇　万拾遺—万拾(叡竜)跡とふや—あまとふや(竜)
つかひに—つかひも(叡)

1　高市郡—ナシ(竜)

2　山辺郡—ナシ(竜)

八六二　読人不知—読不(叡竜)

八六三　続後撰—続後(叡)続古(竜)基—ナシ(叡)

3　志賀郡—ナシ(叡竜)

八六四　千載—千(叡竜)読人不知—読人不(叡)読不(叡)

4　宮—宮五十一(叡)次行の「山城国」の上(竜)

5　・—乙(ママ)言(叡)

八六五　うふる花—こふる花(叡)し□るゝ—時雨ゝ(叡竜)

八六六　古今—古(叡竜)花と—花(叡)斗そ—はかりを(竜)

八六七　後拾—後撰(叡竜)

奈良都　添上郡

八六〇　万拾遺　跡とふやかりのつかひにいつしかもならの宮こにことつてやらむ　人丸」

藤原都　高市郡[1]

六六一　万　ふちはらのふりにし里の秋萩はさきてちりにき君待かねて

布留都　山辺郡[2]

八六二　新古　いそのかみふるき都をきて見れは昔かさしゝ花さきにけり　読人不知

摂津国

難波都　西生郡

八六三　続後撰　すむ月もいく世になりぬ難波かたふるき都の秋のうらかせ　基

近江国

滋賀都　志賀郡[3]

八六四　千載　さゝ浪やしかの都はあれにしをむかしながらの山桜かな　読人不知

宮[4]

山城国　・[5]

野宮　群行以前斎宮御所

八六五　新古　たのもしな野ゝ宮人のうふる花し□るゝ月にあへすなるとも　源順」六七ウ

桂宮　乙訓郡

八六六　古今　秋くれと月のかつらのみやはなるひかりを花とちらす斗そ　源忠

山階宮　宇治郡非吉事

八六七　後拾　はかなくて世にふるよりはやましなの宮の草木とならまし物を

三条右大臣

大和国

高円宮　付尾上宮

八六八　新古　里はあれぬおのへの宮のあたりまて人まつやとの庭の秋かせ

珠城宮・城上郡[6]

八六九　続古　日にみかく玉きの宮の桜花（ママ）のひかりとうへやをきけん　定家

明香宮　高市郡[7]

八七〇　万　たをやめの袖吹かへすあすかかせ都を遠みいたつらにふく　日草天皇

芳野宮

八七一　新古　花そみる道の芝草ふみ分て吉野丶宮の春のあけほの　季能

摂津国

高津宮　西生郡

八七二　新古　あれにけるたかつの宮のほと丶きすたれとなにはのことかたるらむ　長方

近江国

近江宮　志賀郡

八七三　・　さ丶浪やあふみの宮は名のみして霞たな引みや木もりなし　人丸

長門国

豊浦宮　豊浦郡[8]

八七四　・　つ丶みをはとよらの宮につきこめて世丶をへぬれは水ももらさす　貞信公

殿[9]

※　八六八の前にそれぞれ異なる一首あり（叡竜）。後記。

八六八　秋かせ—松風（叡竜）

6　・—玉置イ（竜）

八六九　□のひかりと—春の光と（叡）春の光も（竜）

7　高市郡—ナシ（竜）

八七〇　たをやめの—たをやかに（叡）日草天皇—日原天皇（叡）田原天皇（竜）

八七一　季能—季俊（叡）

八七三　新古—新勅（叡竜）かたるらむ—かたらん（叡）

八七三　・—拾（竜）

8　豊浦郡—ナシ（叡竜）

八七四　・—新勅七（竜）つきこめて—つき初て（叡竜）へぬれは—へぬれと（竜）

9　殿—殿五十二（叡）次行の「大和国」の上（竜）

1　班鳩宮―ナシ（叡）

八七五　風雅―諷（叡）ナシ（竜）よりそ―よしそ（叡）

2　上座部（カンツクラ）―上座郡（竜）

3　名のりけり―名乗ける（竜）

4　薗―園五十三（叡）次行の「山城国」の上（竜）

※「桃園」の項目の歌一首あり（叡）。後記。なお（竜）は歌はないが、一行分空白。

八七七　同―新古（叡）摂政大臣―摂政大政大臣（叡竜）

5　杜―杜五十四（叡）次行の「山城国」の上（竜）

八七八　同―新古（叡竜）

大和国

夢殿（平群郡）（1 班鳩宮）

八七五　風雅　般若臺におさめをきてし法花経もゆめとのよりそうつゝにはこし　慈鎮

筑前国

木圓殿（2 上座郡）　御製

天智天皇のすませ給ひける所也宮中へまいる人は

とはねともかならす名（3）のりけり世を恐給ふ故也　」六八ウ

八七六　新古　あさくらや木のまるとのに我おれはなのりをしつゝゆくはたか子そ

薗（4）

山城国

桃薗　一条北　大宮西

近江国

滋賀花薗

八七七　同　あすよりは志賀の花その稀にたに誰かはとはん春の古郷　摂政大臣

杜（5）

山城国

糺杜　愛宕郡

八七八　同　いつはりをたゝすのもりのゆふたすきかけつゝちかへ我を思はゝ　定文

片岡杜　同郡

八七九　同　ほとゝきす声待ほとはかた岡のもりのしつくにたちやぬれまし　」

6 ・—同郡(叡竜)

八八〇 時雨の雨—村のあめ(叡)能因法師—能因(叡竜)

※ 八八〇の後に一首あり(叡)。後記。

八八一 顕仲—読不(叡竜)

八八二 あふことは—逢ことを(竜)人を—君を(竜)うらみつる哉—おもひつる哉(叡)見つる比哉(竜)読人不知—読不(叡)同(竜)

7 久世郡—ナシ(竜)

八八三 詞花—詞(叡竜)てらせ—ちらせ(叡)

八八四 統後撰—統後(叡竜)

八八六 拾道—ナシ(叡竜)

八八七 新古—ナシ(叡)

八八八 詞花—詞(叡竜)。—かくる(叡)かくる(竜)

常盤杜 ・6

八八〇 同 時雨の雨そめかねてけり山しろのときはのもりのま木の下はゝ 能因法師

羽束師杜 乙訓郡

八八一 玉 家の風ふかぬ物ゆへはつかしのもりのことの葉ちらしつる哉 顕仲

美豆杜

八八二 後撰 あふことはよとにありてふ水のもりつらしと人をうらみつる哉 読人不知

石田杜 久世郡[7]

八八三 詞花 やましろの岩田のもりのいはすとも心のうちをてらせ月影 輔尹

柞杜 相楽郡

八八四 新古 ときわかぬ浪さへ色にいつみ川はゝそのもりに嵐吹らし 定家

浮田杜

八八五 統後撰 下草は葉すゑはかりになりにけりうき田のもりの五月雨の比 俊成 ⌊六九ウ

大和国

三笠杜 添上郡

八八六 拾遺 くり返しみかさの杜にひくしめのなかきめくみを猶いのる哉 祐賢

柏木杜

八八七 新古 郭公忍ふる物をかしは木のもりても声のきこえぬるかな 馬内侍

神南備杜 平群郡

八八八 詞花 くれなゐに見えし梢も雪ふれはしらゆふ。神なひの杜

八八九　鏡王女―鏡王母(竜)
※「波激…」の前行に「河内国」とあり(叡)
1・―河内国(竜)2交野郡―前行の「河内国」の下(叡)
八九〇　むら時雨いくしほ―村しくれ幾たひ(叡)村時雨はいくたひ(叡)

3・――――山ハ陸奥也(竜)
八九二　続古―続古十三(竜)
八九三　ちえに―ちゝに(竜)
八九四　新古―ナシ(叡)
八九五　同―新古(叡)きゝ佗ぬ―聞わひぬ(叡)消佗ぬ(竜)

関白前大政大臣

磐瀬杜
八八九　万　神なひのいはせのもりの呼子鳥いたくな鳴そ我こひまさる　鏡王女
・[1]　波激杜　[2]交野郡
八九〇　続古　むら時雨いくしほ染てわたつうみのなきさの杜の紅葉しぬらん　衣笠内大臣

摂津国
生田杜　八部郡
八九一　新古　きのふたにとはんと思し津の国のいく田のもりに秋はきにけり　家隆」
磐子杜　・[3]
八九二　続古　君にしも秋をしらせぬ津のくにのいはてのもりを我身とも哉　馬内侍

和泉国
信太杜　和泉郡
八九三　千　おもふことちえにやしけき呼子鳥しのたのもりのかたに鳴なり　匡房

伊勢国
月読杜　度会郡
八九四　新古　さやかなるわしのたかねの雲ゐより影やはらくる月よみのもり　西行

駿河国
木枯杜
八九五　同　きゝ佗ぬうつろふ人の秋の色に身を木枯のもりの下露　定宗

伊豆国
子恋杜

八九六　拾遺—拾(叡竜)いかにと—いかにそ(叡竜)

八九七　後撰—ナシ(叡)

4　蒲生郡—ナシ(竜)

八九九　木たかくなりぬ—木たかくそなる(叡竜)

九〇〇　同—千(叡竜)忍ふのことの葉—忍ふの杜のことのは(叡竜)

※　九〇〇の後に「武蔵国　忍杜」の項目あり(竜)。後記。

九〇一　万—万十二(竜)

※　九〇一の後に一首あり(叡)。後記。

九〇二　・—後撰(叡竜)

八九六　拾遺　ここにたにつれ〳〵になく郭公ましてこゝひのもりはいかにと　左大臣

近江国

粟津杜　志賀郡

」七〇ウ

八九七　後撰　関こえてあはつのもりのあはすともし水にみえし影を忘るな　友則

老蘇杜　蒲生郡

4

八九八　同　あつまちの思出にせむ郭公おひそのもりの夜半の一声　公資

若松杜　久寿三年後白河院鳥羽院第四御子御母待賢門院御時大嘗會悠紀方

八九九　千　すへらきのすゑさかふへきしるしには木たかくなりぬわか松の杜　永範

陸奥国

信夫杜　信夫郡

九〇〇　同　いつくより吹来るかせのちらしけんたれも忍ふのことの葉　隆房

美作国

鵜名手杜

九〇一　万　おもはぬを思ふといはゝまとりすむうなてのもりの神そ知らむ

紀伊国

磐代杜

」

九〇二　・　いはしろの杜のいはしと思へともしつくにぬるゝ身をいかにせむ　恵慶法師

大隈国

気色杜

九〇三　染らむ―なるらん(叡)後京極殿―後京極(竜)

九〇四　俊宗女―後宗母(竜)

※　九〇四の後に一首あり(叡)。後記。

1　社―社五十五(叡)次行の「山城国」の上(竜)

九〇五　古今―古(叡竜)

九〇七　同―後撰(叡竜)

2　・―葛野郡(竜)

九〇九　統後撰―統後(叡竜)

3　葛野郡―ナシ(竜)

九一〇　拾遺―拾(叡竜)ひらの社―ひらのゝ社(叡)

九〇三　新古　秋ちかき気色のもりに鳴蟬のなみたの露や下葉染らむ　後京極殿

奈毛木杜

九〇四　金　いかにせんなけきのもりはしけれとも木間の月のかくれなき身を　俊宗女

社[1]

山城国

賀茂社　愛宕郡

九〇五　古今　ちはやふるかもの社のひめこ松萬代ふとも色はかはらし　敏行

御神詠

九〇六　新古　われたのむ人いたつらになしはてはまた雲分てのほる斗そ

貴布祢社　同郡

九〇七　同　奥山にたきりておつる瀧津瀬に玉ちるはかり物なおもひそ　」七一ウ

園韓社

九〇八　後撰　ちかきたにきかぬみそきをなにかそのからかみまてはとをくいのらむ　少将内侍

北野社　・[2]

九〇九　統後撰　くもるへき浮世のすゑをてらしてやあら人神はあまくたりけん　慈鎮

平野社　葛野郡[3]

九一〇　拾遺　ちはやふるひらの社の枝しけみちよもやちよも色はかはらし

木嶋社　同郡　物名部

九一一　新勅　あなしにはこのしまのみやしろたへの雪にまかへる浪はたつらん　俊頼

4 ・—平群郡(叡)平郡郡(竜)

九一三 続後撰—続後(叡竜)行家—知家(叡竜)

※「葛木神…」の前行に「神五十六」とあり(叡)

5 ・—葛上郡(叡竜)

九一三 ちきりさらまし—契りさらまし(竜)

6 會度郡—度會郡(叡竜) 7 宇治郷—宇治郡(叡竜)

九一四 とちとの宮—内外の宮(叡)うちとの色(竜)

九一五 ・—玉(叡竜)ひかりは—光りや(叡)引しめの。—引きしめのなはゝ(叡)引しめ縄の(竜)

8 此御歌—此歌(叡)

9 あらかき—あし墻(竜)

10 あらぬ—あらぬに(竜)

※ 九一七の前に一首あり(叡)。後記。

九一七 ・—諷(叡竜)あさくまのみや—あさくまの神宮(叡)定忠—祭主定忠(叡竜)

大和国

三室社 ・[4]

九一三 続後撰 さか木はにう月のみしめ引かけてみむろの山に神まつるなり 行家

葛木神 ・[5]

九一三 後拾遺 いにしへの月かゝりせはかつらきの神はよるともちきりさらまし 為経」

伊勢国

天照大神 [6]會度郡 [7]宇治郷

九一四 神かせや玉くしのはをとりかはしとちとの宮に君をこそいのれ 俊恵法師

神命御詠

九一五 ・ あまてらす月のひかりは神かきや引しめの。うちとともなし

[8]此御歌は西行法師大神宮にまいりてはるかに[9]あらかきの

外にて心のうちに法施たてまつりて本地はへたてあるへきに

[10]あらぬ垂跡の御前にちかくまいらさるを思ひつゝけて

すこしまとろみけるにつけさせ給ひけるとなん

朝日宮 度會郡

九一六 玉 神かせや朝日の宮のみやうつし影のとかなる世にこそありけれ 鎌倉右大臣

朝熊宮 同郡

九一七 ・ 春かせの岩ねのさくら吹たひに浪の花ちるあさくまのみや 定忠

桜宮 朝日郡

九一八　風—続古(叡竜)まかせつる—まかせけるつ(叡)西行法師—西行(叡)

九一九　千載—千(叡竜)慈円—慈鎮(叡)

九二〇　新後—新古(叡竜)
1　折句のひえのみや—折句ひえのみや(叡)折句ひえのみや〈九二一の前行〉(竜)

九二一　・—玉(叡)慈円—ナシ(叡)
2　垂地—本地(竜)

九二三　・—続古(叡竜)

九一八　風　神かせに心やすくそまかせつるさくらの宮の花のさかりは　西行法師
近江国
比叡社　滋賀郡
」七三ウ

九一九　千載　我たのむ日よしの影はおく山の柴の戸までもさゝさらめやは　慈円

九二〇　新後　あひにあひて日よしの空そさやかなる七のほしのてらすひかりに　成茂

九二一　・[1]折句のひえのみや
人ことにえてうれしきはのりの花みよのほとけのやとの物とて　慈円
第七三宮は垂[2]地普賢大士にておはしませは

九二三　・　見る夢の面影までやうかふらむきさの小川の在明の月　権僧正憲実
筑磨社　坂田郡

九二三　後撰　おほつかなつくまの神のためなれはいくつかなへのかすはいるへき　顕綱
紀伊国
檜隈宮　名草郡

九二四　・　名草山とるや榊のつきもせす神わさしけきひのくまの宮　俊文朝臣
塩屋王子　日高郡

九二五　千載　思ふことくみてかなふる神なれはしほ屋に跡をたるゝなりけり　後三条内大臣
筑前国
香椎宮

九二六　新古　ちはやふるかしゐの宮のあや杉は神のしるしにたてるなりけり　読人不知

九二四　・—諷(叡竜)

九二五　千載—千(叡竜)後三条—三条(叡)

九二六　読人不知—読不(叡竜)

3　寺—寺五十七(叡)次行の「大和国」の上(竜)

九二七　続後撰—続後(叡竜)

4　城上郡—高市郡(叡竜)

5　・—興教寺(叡竜)

九二八　具氏朝臣—具氏(叡竜)

九二九　年もへぬ—年もへて(叡)契りは—契やは(叡)初せ—はやせ(叡)定家—ナシ(叡)

九三〇　続後撰—続後(叡竜)慈円—慈鎮(叡)

6　山城国—山城(竜)　7　頼政—源頼政(竜)

8　ちりつみて—散つけて(竜)

9　花をみて—ナシ(竜)

九三一　拾遺—拾(叡竜)あさきよめすな—朝きよめするな(竜)公忠—公忠前関白(竜)

九三三　続千—千(叡)いにしへに—いにしへの(叡)

10　「定家卿…」—前行の「…いてさせるに」に続く(叡)

寺[3]

大和国

飛鳥寺

九二七　後続撰　暮ぬなりねくらたつねてとふ鳥のあすかの寺の入あひの声　久明親王

豊浦寺　城上郡[4]・[5]

九二八　続古　かつらきやとよらの寺の秋の月にしになるまて影をこそ見れ　具氏朝臣

泊瀬寺

九二九　新古　年もへぬいのる契りは初せ山おのへのかねのよその夕暮　定家

摂津国

難波寺　西生郡　四天王寺

九三〇　続後撰　なにはつに人のねかひをみつしほはにしをさしてそちきりをきける　慈円」ニ三ウ

宮中

大内山　山城国[6]　二条北　平安城　大宮西　[7]二条院御時頼政年比大内まもる事を承て御かきのうちに侍なから昇殿ゆるされぬ事を歎て行幸ありける夜女房の中へ申つかはしける

九三一　千　人しれぬ大裏山の山もりは木かくれてのみ月を見る哉　頼政

左近桜　延喜御時南殿に[8]ちりつみて侍ける花をみて

九三二　拾遺　とのもりのともの宮つこ心あらは此春はかりあさきよめすな　公忠

九三三　続千　百敷や御はしの花はいにしへにいつまて梅のにほひなるらむ　前関白大政大臣

後鳥羽院大内の花のさかり昔の春のおもかけおほしめしいてさせたまひてしのひて御らんせられけるに

定家卿[10]　左近中将　左近次将及二十年にて

九三四　新古　年をへて御幸になるゝ花の陰ふりぬる身をもあはれとや思ふ

1　右近橘—右近橘橘歟(竜)

2　一菅三品—菅三品(竜)

3　・—と云題(叡竜)侍けるに—侍ける(竜)

九三六　続後撰—続後(叡竜)川竹に—河竹の(叡竜)はを そゝへつつ—はをそゝへつる(叡)葉を添つる(竜)

・—続後拾(竜)

九三七　後京極殿—ナシ(叡)

九三八　「藐姑射山」の前に「雲梯」の項目あり(叡竜)。後記。云々—ナシ(竜)

4　続後撰—続後(叡竜)みねたかき—岸たかみ(竜)

九三九　英明—英明中将(叡)英明中将(竜)　6　いつみもと—泉のもと(叡)彼〜すゝみて—ナシ(竜)　7　中将—ナシ(叡)

九四〇　拾遺—ナシ(叡)

九四一　拾遺—ナシ(叡)同(竜)みえね—しらね(竜)

8　「石井…」—改行(叡竜)

9　城外業—改行(叡竜)

10　・—人(叡竜)

九四二　古今—古(叡竜)素性法師—素性(叡竜)

九三五　・　右近橘[1]

わすれすは右のつかさの袖ふれしはなたち花やいまかほるらむ　亀山院

九三六　続後撰　神代よりなかれたえせぬ川竹に色ますことのはをそゝへつゝ　堀川院

萩戸　元應中殿の亭に草花露といふ事を」

九三七　・　露よりもなをことしけし萩のとの明れはいそく朝まつり事　御製

御溝水　内裏の御溝をいふ中殿の前なり

九三八　続千　萩の戸の花の下なるみかは水ちとせの秋のかけそうつれる　後京極殿

藐姑射山　寄仙洞　山海経云姑射山在衆海之外云々　委身荘子

九三九　続後千　君か世はちゝに枝させみねたかきはこやの山の松の行末　前大政大臣

河原院

九四〇　拾遺　松陰の岩井の水をむすひあけて夏なき年と思ひける哉　恵慶法師

同院にてあれたる宿に秋来るといふ事を人ゝよみ侍けるに

九四一　拾遺　八重むくらしけれる宿のさひしきに人こそみえね秋は来にけり　恵慶法し

山井　三条坊門北　京極西　石井[8]　中御門南　東洞院西

飛鳥井　二条万里小路　城外業[9]

白川殿　山城国　愛宕郡

[10]南望側有関路之長行・征馬路駅於翠簾之下東顧赤有林塘之妙紫鶯白鷗遥於朱欄之前

九四二　古今　ちのなみたおちてそたきつ白川は君か代までの名にこそありけれ

1 西樓月落花間曲　中殿燈残竹裏音　2 一菅三品　3 長治二年三月中殿にて竹不改色・を講せられ侍けるに

4 松顧君子之節　池冷水無三伏夏　5 英明　6 彼いつみもとにすゝみて　7 中将

九三九 玄冬素雪之寒朝　九夏三伏之暑月　竹含銷午之風　河原院賦　源順　松高風有一声秋

素性法師」七四ウ

九四三　・—古(竜)
11 よめると—よみ侍ると(叡)
12 井殿—井戸殿(叡竜)
13 一条院—一条(叡)

九四五　・—千(竜)ゆふへ—行ゑ(叡)

九四六　・—続後拾(叡)続後撰(竜)

粟田殿　同郡
在衡大臣　号粟田左大臣山陰卿　孫但馬介
物名染殿　有頼男実大僧都　如無子　舊跡
粟田

九四三　・
うきめをはよそめとのみそのかれ行雲のあはたつ山のふもとに
この歌水尾の御門の染殿より粟田へうつり給ひける時[11]よめるとなん
井殿[12]　一[13]条院北東洞院西角又号縣井戸

九四四　後撰　都人きてもおらなんかはつなくあかたの井戸の山ふきの花　公平女
雲林院

九四五　・
この世をは雲のはやしに門出してけふりとならんゆふへを思ふ
良暹法師

波激院　河内国交野郡
惟喬親王　文徳第一皇子御母紀名虎女　舊跡
静子号三条町
貫之土佐の任はてゝのほり侍ける道にてなきさのいん
の花をみてよみ侍ける

九四六　・
君ことによをふる宿の梅の花むかしの香にそなを匂ひける　」
（底本には奥書あり。書誌の項に既述）　」十五ウ
」十六ウ

以上紙数七拾六枚
若州岩屋山
妙楽寺常住」七ウ

斯道文庫本にない項目・歌等

四〇の次（「山」・鹿背山）

古今　都出てけふみかの原いつみ川かは風寒し衣かせ山

（叡）

続後　ますらをかこさかの道も跡たえて雪ふりにけり衣かせ山

公実　（竜）

四一の次（「山」・笠取山）

金　かさとりの山に世をふる身にしあれは炭やきもをる我心

哉　読不　（叡）

四九の次（「山」・三笠山）

今（ママ）　いかはかり神もあ□れと三笠山二葉の松の千世の気色を

周防内侍　（叡）

新勅　それと身しおなし三かさの山の井のかけにも神の色まさ

る哉　師氏　（叡）

五三の次（「山」・佐保山）

古　さほ山の柞のもみち散ぬへみよるさへ見よと照らす月影

読不　（叡）

五七の次（「山」・高円山）

同　春日野に時雨ふるみゆあすよりは紅葉かさゝむたかまと

の山　式部卿　（叡）

五七の次（「山」・三輪山）

後撰　故郷の三わの山路を尋れは杉まの月の影たにもなし　素

性法師　（叡）

六六の次（「山」・椋橋山）

万　椋橋の山をたかみか夜かくれにいてくる月の光りともし

き　（叡）

七〇の次（「山」・布留山）

万　いそのかみふるの山なる杉村のおもひすくへき君ならな

くに　丹生王　（叡）

八三の次（「山」・袖振山）

千　わきも子か袖ふる山も春きてそ霞の衣たちわたりける

匡房　（叡）

八七の次（「山」・葛木山）

新　白雲のたえまになひく青柳のかつらき山に春風そ吹　雅

経　（叡）

一〇六の次（「山」・三室山）

千　みむろ山谷にや春のたちぬらん雪の下水岩たゝく也　中

納言　（叡）

同　みむろ山おろす嵐のさひしきに妻こふ鹿の声たくふ也

二条大皇大后宮肥後　（叡）

新（ママ）　神なひのみむろの山の葛かつらうら吹かへす秋はきにけ

り　家持　（叡）

万　わかきぬの色染たるふちさけのみむろの山の紅葉してけ

り　人丸　（叡）

一一三の次（「山」・待兼山）

続後勅（ママ）　よをかさねまちかね山の郭公雲ゐのよそに一声そ聞　周

防内侍　（叡）

二八の次（「山」・鈴鹿山）

千　ふるまゝに跡たえぬれはすゝか山雪こそ関の戸さし成け
れ　内大臣　（叡）

諷　下紅葉色々になる鈴か山時雨のいたくふれは成りけり
能定　（叡）

三七の次（「山」・筑波山）

後（ママ）　今はとて心つくはの山みれは梢よりこそ色かはりけれ
読不　（叡）

拾　かしまなるつくはの山のつくつくと我身ひとつに思つむ
哉　同　（叡）

つくは山はやま茂山しけゝれと思ひ入にはさはらさりけ
り　（叡）

三九の次（「山」）

滋賀山　同郡　書様　日本紀志賀
延喜式滋賀

千載　嵐吹しかの山への桜花散は雲ゐにさゝ波そたつ　公行
もみち　時雨　（叡竜）

二九の次（「山」）

可也山

万　草枕旅をくるしみ恋をれはかやの山へにさほしかもなく
（叡）

三五の次（「岳」〈武蔵国〉）

忍岡

しほるとも知人もなき袂かなこれや忍ひの岡のかけ草
堀百斎宮河内　（竜）

たかためにに忍ひの岡のわらひ（ママ）煙はたてすもえわたるらん
俊成　（竜）

三五の次（「岳」・水茎岡）

万十二　水くきの岡の葛葉を吹返し面知（オモシル）こくか見えぬ比かも

二八の次（「井」・田中井戸）

紀伊国　郡賀
万九三粟乃中尓向有曝（ムカヘルサラシ）井之不絶（カヒハンソコ）将通彼所尓
妻毛（モ）我（カ）

三七の次（「岸」・龍田岸）

続後　春風のたつたの岸の柳かけなかれそやらぬ浪の下草　西
園寺　（叡竜・ただし竜は続後―続後撰、西園寺―西園
寺入道前大政大臣）

三三の次（「河」・梅津川）

金　夕されは門田のいなはおとつれてあしのまろやに秋風そ
ふく　・　（叡竜・ただし竜は・―大納言経信）

師賢朝臣の梅津にまかりて人々歌よみけるに田家秋風
といへる事をよめる　（竜）

四一九の次（「河」・吉野川）

古　吉の川岸の山吹ふく風にそこのかけさへうつろひにけり
貫之　（叡）

万　音にきくめにはまた見ぬよしの川六田の淀をけふ見つる
哉　（叡）

同　よしの河いはとかしはのときはなる我はかよはん万代まても　（叡）

同　御吉のゝ岩もとさらにに鳴蛙むへもなくなり此川の瀬に（叡）

五八の次（「海」・伊勢海）

続　伊勢の海の渚をきよみすむ鶴の千とせの声を君にきかせん　（叡）

後　いせの海のあまのまてかたいとまなみなからへにける身をそうらむる　黒主　（叡）

五七の次（「海」・珠洲海）

万　雲いよりすゝめくりしてこし舟のおきにおさかるほの〳〵と見ゆ　（竜）

五六の次（「海」・奈呉海）

湊風さむく吹らしなこの江に妻よひかはしたつ澤になく（竜）

ふきはらふあなしの風に雲晴れてなこのとわたる有明の月　（竜）

六七の次（「浦」）

阿比浦

波風も長閑なる世の春にあひてあみのうら人たゝぬ日そなき　家隆　（竜）

六七の次（「嶋」・淡路嶋）

万十二　住吉の岸に向へる淡路嶋あはれと君をいはぬ日はなし（竜）

六八〇の次（「濱」）

高師濱

万一　大伴の高師の濱の松か根に枕に宿杉（チルト）家之所偲由（ヌレト）（シノハユ）（オモホユ）（竜）

七一七の次（「潟」・石見潟）

いは見かた恨そ深きおきつ浪よする玉藻にうつもるゝ身は　（竜）

七一九の次（「江」・堀江）

万　さ夜深てほりえこくなるまつら舟かち音たかしはやみか（みほ）も　（叡）

後　まこもかるほり江にうきてぬる鴨のこよひの霜にいかにわふらん　読不　（叡）

詞　五月雨になにはほり江のみほつくし見えぬや水のまさるなるらん　源忠孝　（叡）

七三〇の次（「江」・津田細江）

続古　風ふけは浪かたゝむとまつほとに津田のほそ江にうらはかくれぬ　赤人　（叡）

七七八の次（「野」・浅羽野）

同十二　あさは野にたつみはこすけねかくれてたれゆへにかは我こひさらん　（竜）

七七九の後（「野」）

武蔵国　横野堤ハ和泉国在之

多麻横野

雲さそふ嶺の木枯吹なひくたまの横野に霰ふる也　家隆
（竜）
河内国
玉田横野
とりつなれ玉田よこのゝはなれ駒つくしのけたにあせみ
花さく　俊頼　（竜）
八三五の次（「橋」・海士橋立）
金　恋わたる人に見せはや松の葉も下紅葉する天の橋立　範
永　（叡）
はしたてやよさのふけ井のさ夜千鳥遠さかる興にさゆる
月かけ　衣笠内大臣　（叡）
八四三の次（「関」・霞関）
よふ子鳥霞の関にこゑすなり過行人をたちとまれとや
慈鎮　（竜）
八四三の次（「関」・逢坂関）
古　あふさかの関になるかゝ岩清水いはて心におもひこそす
れ　（叡）
新　相坂や木すゑの花を吹からに嵐そかすむ関の杉村　宮内
卿　（叡）
新千　こえてのち物おもひける相坂は関守神やゆるさゝるらん
二条院讃岐　（叡）
八六七の次（「宮」・高円宮）
萩か花ま袖にかけてたかまとの尾上の宮にひれふるやた
れ　（叡）
をのつから待よこしよひも昔なりけり　太上天皇
（叡）
八七六の次（「薗」・桃薗）
金連歌　もゝそのゝ桃の花こそさきにけれむめ津の梅はちりやし
ぬらん　願経法師　公賢朝臣　（叡）
八八〇の次（「杜」・常盤杜）
続古　いつまてか常盤杜のみしめなはつれなき中にかけて恋ら
ん　（叡）
九〇〇の次（「杜」）
武蔵国
忍杜
千五百番涼しさをならの葉風に先立て忍ひの杜に秋やきぬらん
顕昭　（竜）
九〇一の次（「杜」・鵜名手杜）
同　ま鳥すむうなての杜の菅のねをきぬにかきつけきせん子
もかな
九〇四の次（「杜」・奈毛木杜）
金　おひたえて枯ぬときゝし木のもとのいかてなけきの杜と
なるらん　（叡）
九一六の次（「社」・朝熊宮）
続古　神さひてあれは幾世に成ぬらん浪になれたる朝熊の宮
（叡）

九三八の次（「宮中」）

雲梯

源行宗朝臣殿上おちて侍けるころ人の殿上したりけるを見て

・うら山し雲のかけはし立かへりふたゝひひのほる道をしらはや（叡竜・ただし竜はおちて―おりて、・―金）

＊

箱崎（「崎」・筑前国）の注記

昔戒定慧の三学の箱を彼松原にうつみ給しかは箱崎とは申也筑紫博多つゝたる所唐の海に向ひて社壇は西に向てましまし是異国降伏のために也（竜）

山
山城国
小塩山
松尾山
嵐山
亀山
小倉山
嵯峨山
高雄山
常盤山
神山
鞍馬山
大原山
音羽山
岩蔵山
稲荷山
鳥羽山
深草山
伏見山
花山
三室戸山
宇治山
朝日山
槙雄山
男山
鷲坂山
狛山
柞山
鹿背山
笠取山
暗部山
大和国
春日山
三笠山
佐保山
奈良山
着栖山
羽買山
高円山
三輪山
泊瀬山
天香山
耳無山
椋橋山
布留山
吉野山
水分山
象山
御船山
袖振山
丹生山
待乳山
葛木山
高天山
巨勢山
龍田山
神南備山
三室山
伊駒山
河内国
伊駒山
摂津国
有馬山
羽束山
水無瀬山
待兼山
三国山
伊勢国
神道山
朝熊山
鈴鹿山
三河国
二村山
宮道山
遠江国
高師山
佐夜中山
駿河国
富士山
宇津山
志豆幡山
伊豆国
伊豆御山
甲斐国
塩山
相模国
笹根山
足柄山
鎌倉山
下総国
待乳山
常陸国
筑波山
近江国
長等山
〈滋賀山・叡竜〉
逢坂山
関山
手向山
来増山
比良山
石山
谷上山
滋賀楽山
水尾山
大蔵山
鷹尾山
弥高山
三室山
朝日山
三上山
守山
鏡山
奥津島山
玉緒山
鳥籠山
美濃国
伊吹山
美濃御山
因幡山
船木山
飛騨国
位山
信濃国
更級山
姨捨山
浅間山
下野国
黒髪山
陸奥国
信夫山
末松山
安積山
美知能久山
磐手山
出羽国
恋山
若狭国
後瀬山
青葉山
越前国
有乳山
帰山
塩津山
加賀国
白山
越中国
二上山
丹波国
大江山
千世能山
神南備山
桂山
鼓山
丹後国
椋橋山
但馬国
入佐山
岩見国
高間山
高角山
鴨山
播磨国
高砂
美作国
久米作良山
備中国
吉備中山
弥高山
岩屋山
紀伊国
高野山
妹妹山
名草山
絲鹿山
切目山
三熊野山
神蔵山
那智山
淡路国
淡路嶋山
阿波国
阿波山
讃岐国
松山
筑前国
朝倉山
志加山
〈可也山・叡〉
豊前国
鏡山
四極山
肥前国
松浦山
未勘国
矢野神山
日晩山
神垣山
名陰山
一重山
嶺
大和国
吉野嶺
青根嶺
小倉嶺
常陸国
筑波根嶺
信濃国
風越嶺
嵩
大和国
吉野嵩
弓槻嵩

伊駒嵩　近江国
大嵩　三上嵩

根

甲斐根　甲斐国
常陸根　常陸国
近江国　比良高根
越前国　有乳根

岳

山城国　衣笠岳
御輿岳　双岳
亀岳　船岳
片岳　八塩岳
大和国　逝廻岳
檀岳　河内国
交野岳　武蔵国
〈忍岳・竜〉　向岳
近江国　水茎岳
陸奥国　信夫岳
磐代岳　未勘国
入日岳

杣

和泉国　泉杣
近江国　朽木杣
水尾杣　我立杣
美濃国　梓杣

林

山城国　月林

隈

山城国　小嶋隈
大和国　佐檜隈
陸奥国　武隈
阿武隈

坂

相模国　足柄御坂
信濃国　木曽御坂
越前国　伊津波坂
紀伊国　藤代御坂
行相坂

澤

山城国　広澤
大和国　布留野澤

井

山城国　飛鳥井
大和国　玉井
三吉野井　亀井
伊勢国　忘井
近江国　山井
走井　丹波国
増井　松井
田中井戸

水

山城国　広澤池
並池　大和国
益田池　軽池
磐余池　猿澤池
菅田池　摂津国
昆陽池　生田池
真野乃池　下総国
勝間田池　豊前国
企救池　未勘国
狩道池

堤

和泉国　横野堤

沼

山城国　冴野沼
摂津国　浅澤沼
玉江沼　近江国
筑摩江沼　上野国
伊香保沼　陸奥国
安積沼

瀧

山城国　清瀧
鳴瀧　戸難瀬瀧
音羽瀧　白川瀧
稲荷瀧　大和国
吉野瀧　宮瀧
布留瀧　摂津国
布引瀧　伊勢国
那智瀧　音無瀧
鳴瀧　肥後国
鼓瀧

窟

山城国　笠置窟
紀伊国　三穂窟
志都窟

岸

大和国　三室岸
龍田岸　摂津国
大江岸　播磨国
藤江岸　紀伊国
磐代岸

原

山城国　平野原
竹田原　綴喜原
甕原　大和国
御垣原　朝原
摂津国　角松原
伊勢国　山田原
若松原　駿河国
浮嶋原　近江国
千松原　信濃国
曽乃原　切原
陸奥国　信夫原
安達原　播磨国

相松原
紀伊国
若松原
淡路国
浅野原

河

山城国
大井川
戸難瀬川
西川
梅津川
紙屋川
清瀧川
大原川
貴布祢川
鴨川
鴨羽川
御手洗川
瀬見小川
有栖川
白川
音羽川
中川
芹川
木幡川
宇治川
桂川
淀川
井手川
井手玉川
泉川
澤田川
楢小川
大和国
龍田川
神南備川
富緒川
佐保川
飛鳥川
三輪川
泊瀬川
吉野川
夏箕川
象小川
河内国
天川
高瀬川
竹川
檜隈川
摂津国
水無瀬川
阿久刀川
玉川
湊川
伊勢国
御裳濯川
五十鈴川
宮川
度会川
鈴鹿川
駿河国
富士川
下総国
角田川
常陸国
美奈乃川
桜川
近江国
関小川
横川
田上川
野路玉川
野洲川
不知哉川
鳥籠川
美濃国
関藤川
伊津貫川
信濃国
筑摩川
更級川
陸奥国
阿武隈川
名取川
衣川
野田玉川
出羽国
最上川
丹後国
倉橋川
素鵞川
播磨国
飾万川
備中国
長等川
紀伊国
妹背川
磐田川
音無川
熊野川
筑前国
思川
染川
白川
松浦川
玉嶋川
未勘国
石川

河原

山城国
賀茂河原
大和国
龍田河原

津

摂津国
難波津
三津
高津
敷津
近江国
滋賀津

泊

摂津国
三津泊
播磨国
明石泊
備前国
唐琴泊

淀

山城城
淀
河内国
高瀬淀
伊勢国
大淀

湊

摂津国
猪名湊
難波湊
伊勢国
小野湊
芋生湊
遠江国
白菅湊
近江国
比良湊
水茎湊
八十湊
出羽国
袖湊
紀伊国
由良湊

海

摂津国
那古海
難波海
武庫海
生田海
伊勢国
伊勢海
伊豆国
伊豆海
下総国
香取海
近江国
近江海
信濃国
諏訪海
陸奥国
奥海
越前国
気比海
能登国
珠洲海
越中国
奈呉海

浦

摂津国
住吉浦
津守浦
浅香浦
長居浦
葦屋浦
須磨浦
大輪田浦
三犬女浦
真野浦
和泉国
高師浦
吹飯浦
伊勢国
二見浦
生浦
鳴呼浦
尾張国
阿波手浦
駿河国
田籠浦
三穂浦
下総国
真間浦
常陸国
霞浦
近江国
滋賀浦
真野浦
堅田浦
三上浦
塩津浦
香取浦
野嶋浦
陸奥国
塩竈浦
信夫浦
十府浦
出羽国
袖浦

越前国
気比浦
多古浦
有礒浦
苧生浦
丹後国
与謝浦
但馬国
二見浦
出雲国
袖師浦
播磨国
明石浦
二見浦
藤江浦
備後国
鞆浦
紀伊国
若浦
三名部浦
三熊野浦
形見浦
淡路国
松帆浦
讃岐国

松賀浦
筑前国
志加浦
香椎浦
松浦
千賀浦
壱岐国
海松目浦
末勘国
鳥羽田浦
三嶋浦
蓑宇浦
葦若浦
藻塩浦
古江浦
干潟浦
床浦
〈阿比浦・竜〉

大和国
佐野渡
摂津国
難波戸
葦屋奈太
下総国
久我渡
近江国
滋賀大輪田
美濃国
宇留馬渡
播磨国
明石門
備前国
虫明迫門
紀伊国
由良戸
阿波国
鳴門

渡　付門
迫門　奈太
輪田
山城国
淀渡

嶋
山城国
橘小嶋
河内国
橘嶋
摂津国
田蓑嶋
三嶋
浦初嶋
伊勢国
伊勢嶋
志摩国
伊良虞嶋
近江国
野嶋
下野国
室八嶋
陸奥国
松嶋
雄嶋
籬嶋
浮嶋
美豆小嶋
松賀浦嶋
都嶋

興
摂津国
鳴尾興
葦屋興

丹後国
浦嶋
備前国
大嶋
備中国
吉備小嶋
周防国
竹嶋
紀伊国
玉津嶋
野嶋
淡路国
淡路嶋
繪嶋
肥後国
多波礼嶋
薩摩国
興小嶋
未勘国
雪嶋
宇留間嶋

濱
摂津国
長州濱

〈高師濱・竜〉
和泉国
興津濱
伊勢国
長濱
千尋濱
駿河国
有度濱
上総国
黒戸濱
近江国
打出濱
三津濱
陪膳濱
越中国
信濃濱
紀伊国
名草濱
吹上濱
磐代濱
千尋濱
豊前国
湖聞濱
真野濱

塩竈
陸奥国
千賀塩竈

崎
河内国
伊加〻崎
摂津国
輪田御崎
近江国
滋賀唐崎
山城国
松崎
筑前国
箱崎
金御崎

礒
甲斐国
指出礒
相模国
小餘綾礒

潟

尾張国
鳴海潟
出羽国
蚶潟
岩見国
岩見潟

江
山城国
巨椋江
摂津国
堀江
三嶋江
玉江
伊勢国
小野舊江
遠江国
引佐細江
近江国
筑摩江
飛驒国
飛驒細江
陸奥国
玉造江
越前国

玉江
丹後国
水江
播磨国
津田細江
佐比江

野
山城国
嵯峨野
紫野
御生所野
淀野
美豆野
深草野
石田小野
大和国
真野
宇陀野
蜻蛉小野
磐余野
布留野
古柄小野
巨勢野
阿多大野

河内国
交野
摂津国
遠里小野
浅澤小野
猪名野
遠江国
引馬野
武蔵国
武蔵野
立野
三吉野
近江国
粟津野
蒲生野
紫野
筑摩野
勝野
宇祢野
信濃国
菅荒野
浅羽野
上野国
佐野
〈武蔵国

多麻横野
河内国
玉田横野・
竜〉
横野
陸奥国
宮城野
越中国
三嶋野
丹後国
生野
播磨国
印南野
紀伊国
秋津野
未勘国
引野
手枕野

牧

山城国
美豆御牧
信濃国
望月御牧
切原御牧

国

日本国

郡

甲斐国
都留郡
陸奥国
名取郡
紀伊国
牟婁郡

里

山城国
小野里
音羽里
桂里
大和国
十市里
菅原伏見里
秋篠里
神南備里
河内国
朝日里
暗部里

播磨国
飾磨里

村

近江国
青柳村
千枝村
丹波国
長田村
酒井村

橋

山城国
宇治橋
大和国
久米岩橋
布留高橋
坂田橋
摂津国
長柄橋
真野継橋
参河国
八橋
遠江国
濱名橋

下総国
真間継橋
上野国
佐野船橋
近江国
勢多橋
信濃国
木曽懸橋
久米路橋
陸奥国
緒絶橋
常磐橋
丹後国
海士橋立

関

摂津国
諏摩関
伊勢国
鈴鹿関
川口関
駿河国
淨見関
相模国
足柄関

武蔵国
霞関
近江国
逢坂関
陸奥国
白川関
奈古曽関
衣関
下紐関
豊前国
門司関

市

大和国
辰市
駿河国
安部市
播磨国
飾磨市

都

山城国
都
宇治都
久迩都

大和国
奈良都
藤原都
布留都
摂津国
難波都
近江国
滋賀都

宮

山城国
野宮
桂宮
山階宮
大和国
高円宮
珠城宮
明日香宮
芳野宮
摂津国
高津宮
近江国
近江宮
長門国
豊浦宮

殿

大和国
夢殿
筑前国
木圓殿

薗

山城国
桃薗
近江国
滋賀花園

杜

山城国
糺杜
片岡杜
常磐杜
羽束杜
美豆杜
石田杜
柞杜
浮田杜
大和国
三笠杜

柏木杜
神南備杜
磐瀬杜
波潦杜
摂津国
生田杜
磐手杜
和泉国
信太杜
伊勢国
月読杜
駿河国
木枯杜
伊豆国
子恋杜
近江国
粟津杜
老蘇杜
若松杜
陸奥国
信夫杜
〈武蔵国
忍杜・竜〉
美作国
鵜名手杜

紀伊国
磐代杜
大隅国
気色杜
奈毛木杜

杜

山城国
賀茂杜
貴布祢杜
園韓杜
北野杜
平野杜
木嶋杜
大和国
三室杜
葛木神
伊勢国
朝日宮
朝熊宮
桜宮
近江国
比叡杜
筑磨杜
紀伊国

檜隅宮
塩屋王子
筑前国
香椎宮

寺

大和国
飛鳥寺
豊浦寺
泊瀬寺
摂津国
難波寺

宮中

大内山
左近桜
右近桜
萩戸
御溝水
〈雲梯・叡竜〉
藐姑射山
河原院
山井
飛鳥井

白川殿
粟田殿
井殿
雲林院
波激院